

在宅医療の提供状況について ～在宅療養支援診療所等調査結果から～ 【久留米圏域】

平成31年1月

福岡県 高齢者地域包括ケア推進課

調査の概要について

1 目的

- ・本県の在宅医療の現状等を把握し、在宅医療にかかる連携体制構築の進捗状況の評価を行う。
- ・過去の調査結果と比較し、課題を分析することで、保健医療計画や在宅医療の推進に反映させる。

2 調査実施日

平成30年7月30日

3 調査対象と回収率

平成30年7月1日現在、九州厚生局に以下の届出を行っている県内の医療機関を対象とした。

- ・在宅療養支援診療所 732か所/794か所（回収率 92.2%）
【うち、圏域内 88か所/98か所（回収率 89.8%）】
- ・在宅療養支援病院 79か所/82か所（回収率 96.3%）
【うち、圏域内 10か所/10か所（回収率 100.0%）】
- ・在医総管（診療所・病院） 400か所/427か所（回収率 93.7%）
【うち、圏域内 58か所/60か所（回収率 96.7%）】

※在医総管は、平成29年度から調査対象としている。

調査票回収率(二次医療圏別)

	診療所			病院			全体		
	調査対象数	回収数	回収率	調査対象数	回収数	回収率	調査対象数	回収数	回収率
①福岡・糸島	342	315	92.1%	29	29	100.0%	371	344	92.7%
②粕屋	38	36	94.7%	8	8	100.0%	46	44	95.7%
③宗像	31	29	93.5%	2	2	100.0%	33	31	93.9%
④筑紫	54	49	90.7%	8	6	75.0%	62	55	88.7%
⑤朝倉	33	33	100.0%	1	1	100.0%	34	34	100.0%
⑥久留米	154	142	92.2%	14	14	100.0%	168	156	92.9%
⑦八女・筑後	44	43	97.7%	2	2	100.0%	46	45	97.8%
⑧有明	68	64	94.1%	7	7	100.0%	75	71	94.7%
⑨飯塚	34	33	97.1%	7	7	100.0%	41	40	97.6%
⑩直方・鞍手	34	34	100.0%	1	1	100.0%	35	35	100.0%
⑪田川	27	26	96.3%	1	1	100.0%	28	27	96.4%
⑫北九州	297	268	90.2%	25	22	88.0%	322	290	90.1%
⑬京築	37	34	91.9%	5	5	100.0%	42	39	92.9%
福岡県	1,193	1,106	92.7%	110	105	95.5%	1,303	1,211	92.9%

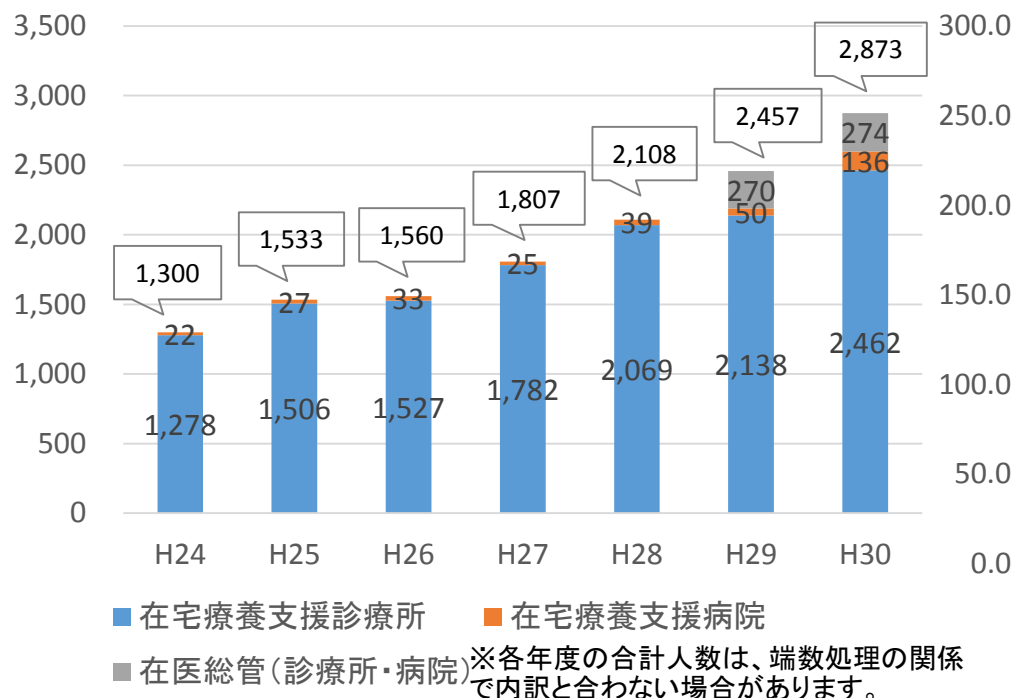
※在医総管は、診療所または病院に分類。

訪問診療患者数(年次推移)

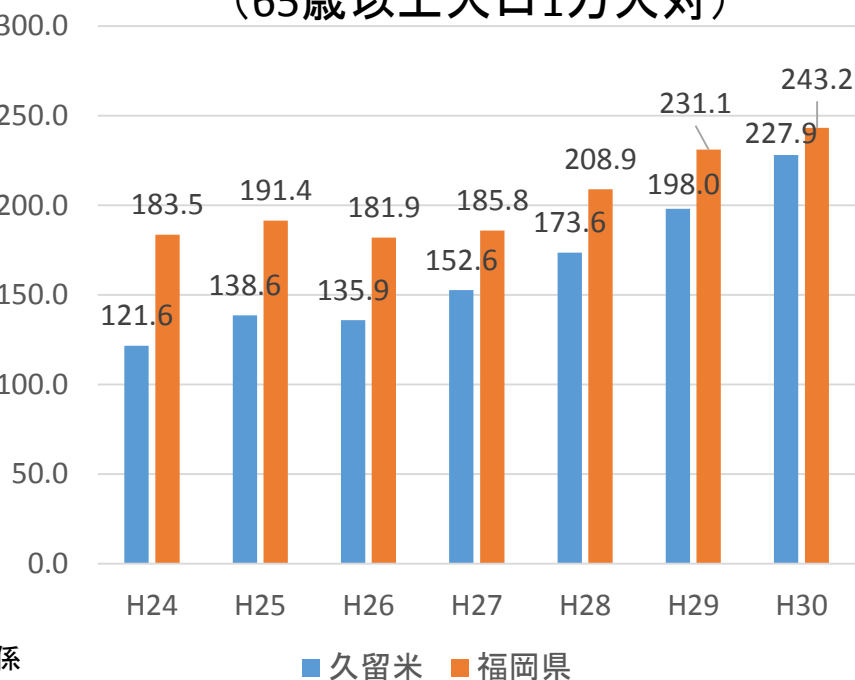
※推計値

- ・訪問診療患者数(推計値)は年々増加している。
- ・訪問診療患者数(推計値・65歳以上人口1万人対)は、県平均を下回っているが、県平均との差が徐々に縮まってきている。

訪問診療患者数



訪問診療患者数 (65歳以上人口1万人対)



※「訪問診療患者数」とは、7月の1ヶ月間に訪問診療の算定を行った患者数を指す。(平成29年度のみ、6月の1ヶ月間の患者数を指す。)

※推計値について

平成24年度～H28年度は2区分(在支診・在診病)、平成29年度は3区分(在支診・在診病・在医総管)に分けて推計し報告しているが、平成30年度からは届出を8区分(在支診1～3、在診病1～3、在医総管(診療所・病院))に分けて推計することとしており、年次比較をするため、平成24年度～28年度までの訪問診療患者数は6区分(在支診1～3、在診病1～3)、平成29年度は7区分(在支診1～3、在支病1～3、在医総管)に分けて推計し直している。なお、平成29年度は在医総管を診療所と病院に分けて調査を行っていないため、7区分で推計し直している。

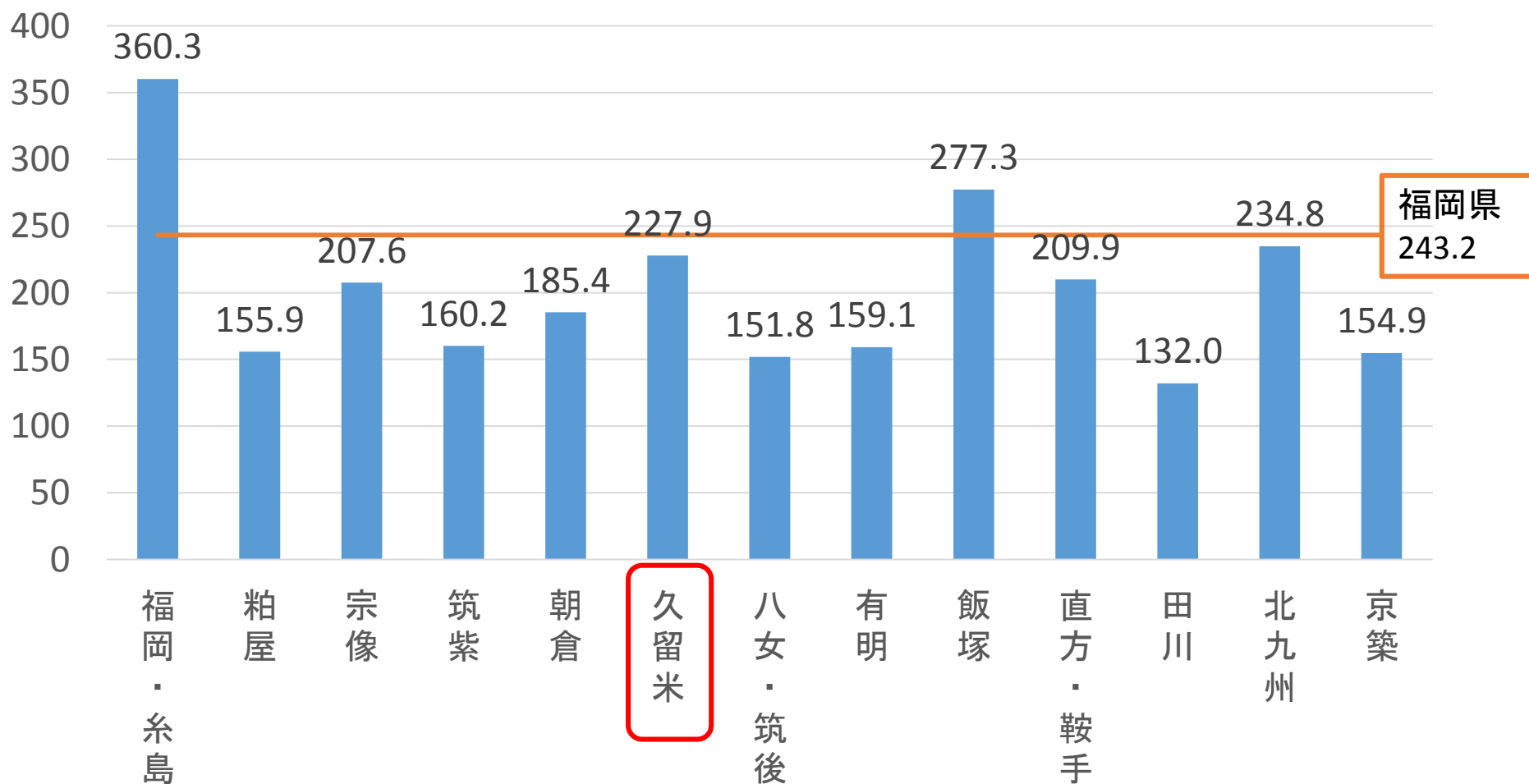
※在医総管は、平成29年度から調査対象としている。

訪問診療患者数

(二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※推計値

・久留米圏域は、県内で4番目に多い227.9人であるが、県平均(243.2人)の9割強となっている。

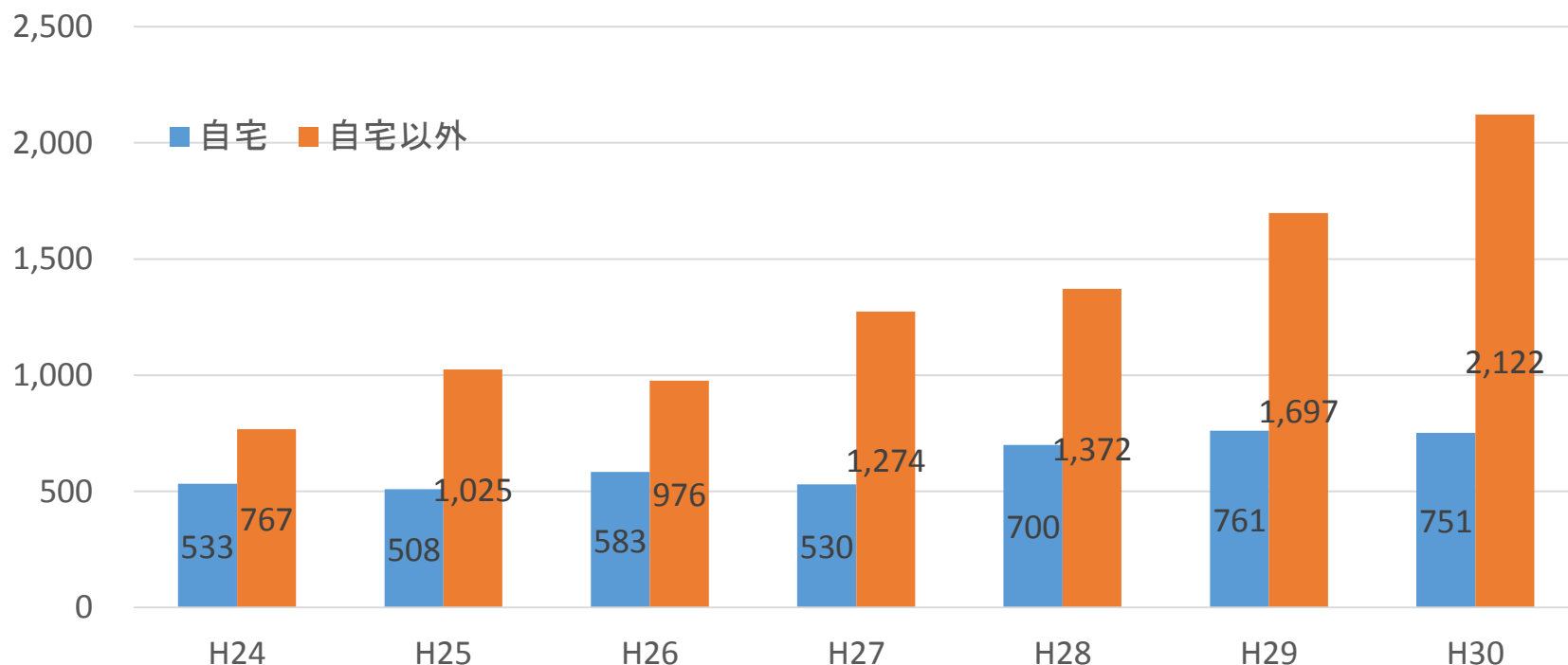


※「訪問診療患者数」とは、7月の1ヶ月間に訪問診療の算定を行った患者数を指す。

訪問診療患者数（居所別の年次推移）

※推計値

- ・自宅への訪問診療患者数は、平成24年度から27年度は500人台で推移していたが、平成28年度から平成30年度は700人台に増加している。
- ・自宅以外への訪問診療患者数は、ここ数年で大きく増加している。



※「訪問診療患者数」とは、7月の1ヶ月間に訪問診療の算定を行った患者数を指す。（平成29年度のみ、6月の1ヶ月間の患者数を指す。）

※無回答の医療機関があるため、各年度の合計人数はP.2下の訪問診療患者数と合わない場合があります。

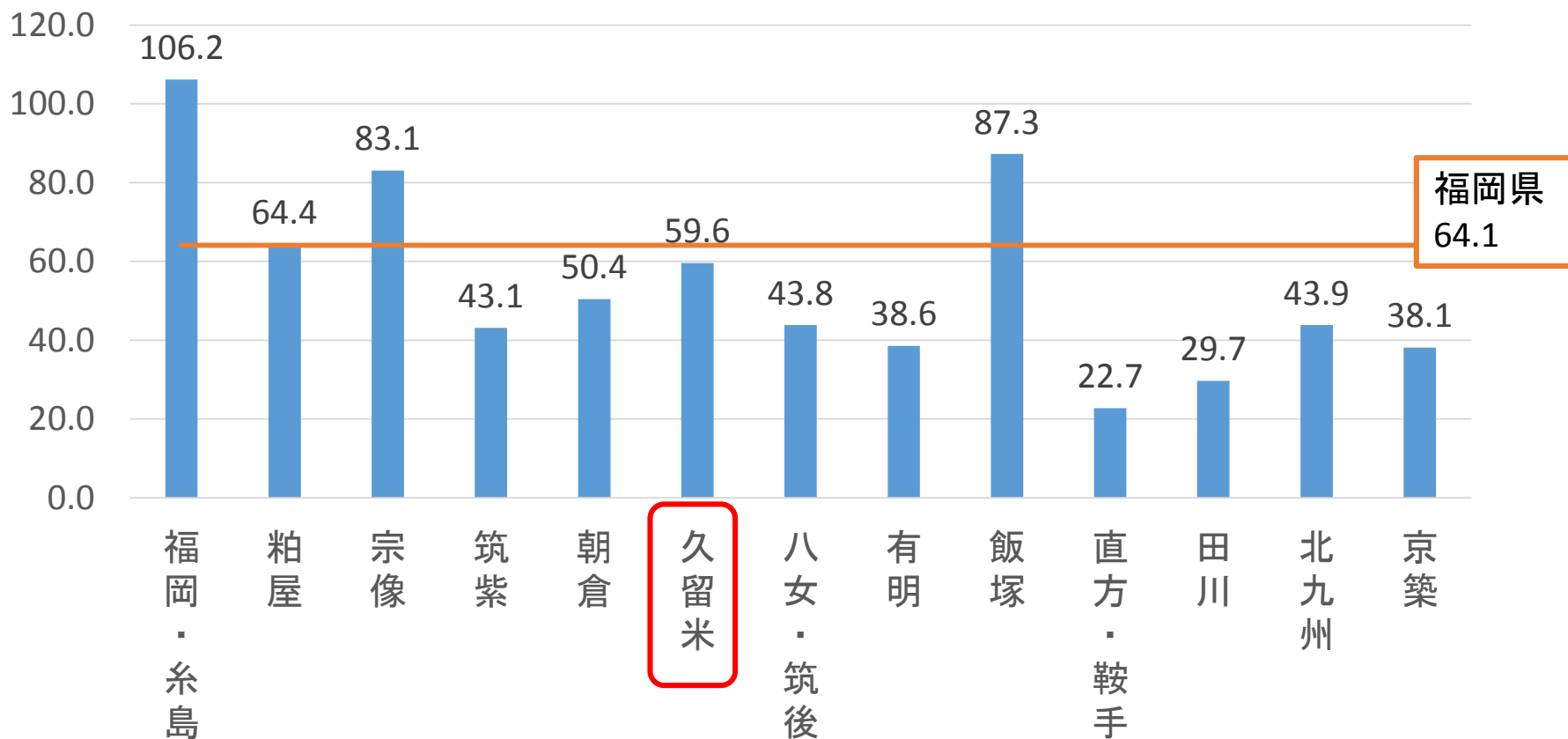
※各年度の合計人数は、端数処理の関係で内訳と合わない場合があります。

※「自宅」とは、持ち家や賃貸住宅等のいわゆる自宅を指す。

「自宅以外」とは、有料老人ホーム、グループホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、特別養護老人ホーム等を指す。（H24～H28については、サービス付き高齢者向け住宅は「自宅」に含む。）

自宅への訪問診療患者数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対) ※推計値

・久留米圏域は、県内で5番目に多い59.6人であるが、県平均(64.1人)の約9割となっている。

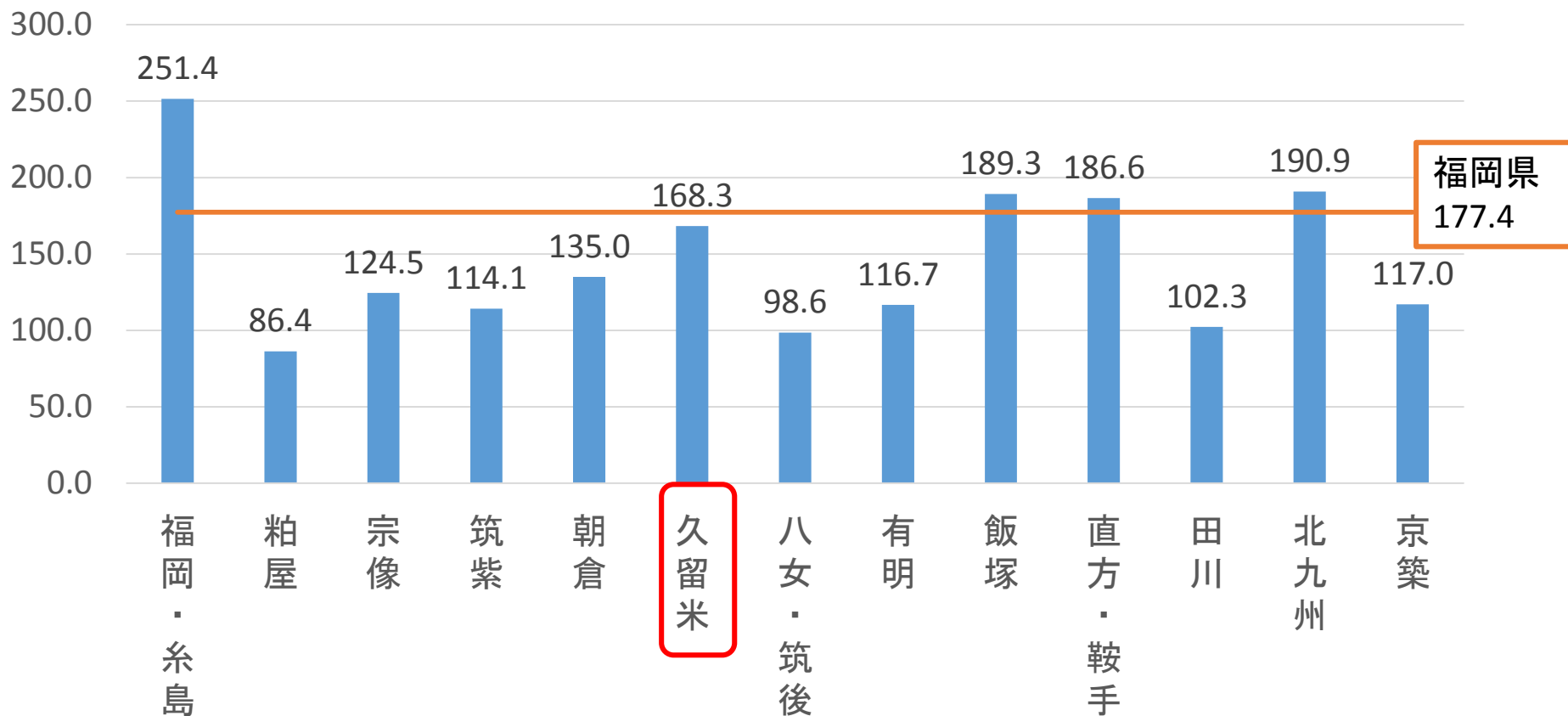


※「訪問診療患者数」とは、7月の1ヶ月間に訪問診療の算定を行った患者数を指す。

※「自宅」とは、持ち家や賃貸住宅等のいわゆる自宅を指す。

自宅以外への訪問診療患者数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対) ※推計値

・久留米圏域は、県内で5番目に多い168.3人であるが、県平均(177.4人)の約95%となっている。



※「訪問診療患者数」とは、7月の1ヶ月間に訪問診療の算定を行った患者数を指す。

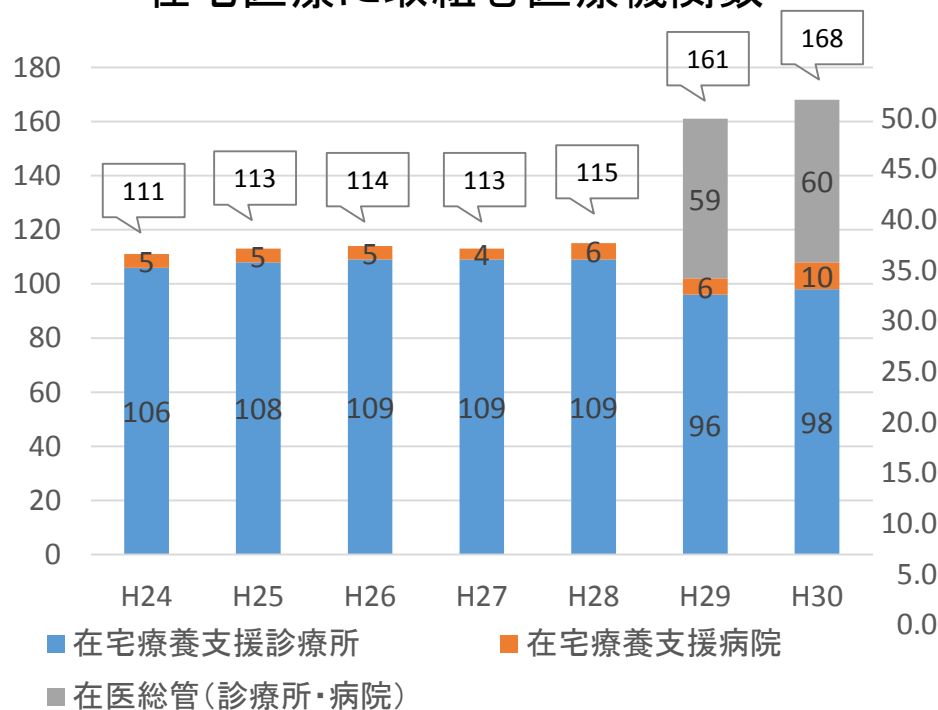
※「自宅以外」とは、有料老人ホーム、グループホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、特別養護老人ホーム等を指す。

在宅医療に取り組む医療機関数（年次推移）

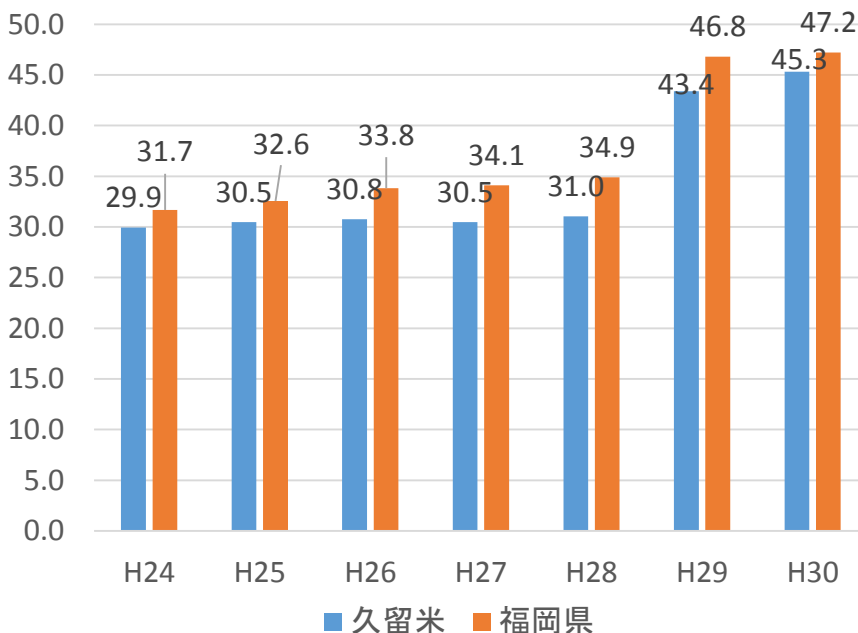
※実数

- ・在宅療養支援診療所数は、平成24年度から平成28年度までは106～109施設で推移していたが、平成29年度に13施設減少し、その後も100施設未満となっている。
- ・在宅医療に取り組む医療機関数（可住地面積100km²あたり）は、県平均の8割～9割台で推移している。

在宅医療に取り組む医療機関数



在宅医療に取り組む医療機関数 （可住地面積100km²あたり）



※「在宅医療に取り組む医療機関数」とは、平成30年7月1日現在、九州厚生局に在支診・在診病・在医総管の届出を行っている県内の医療機関を指す。

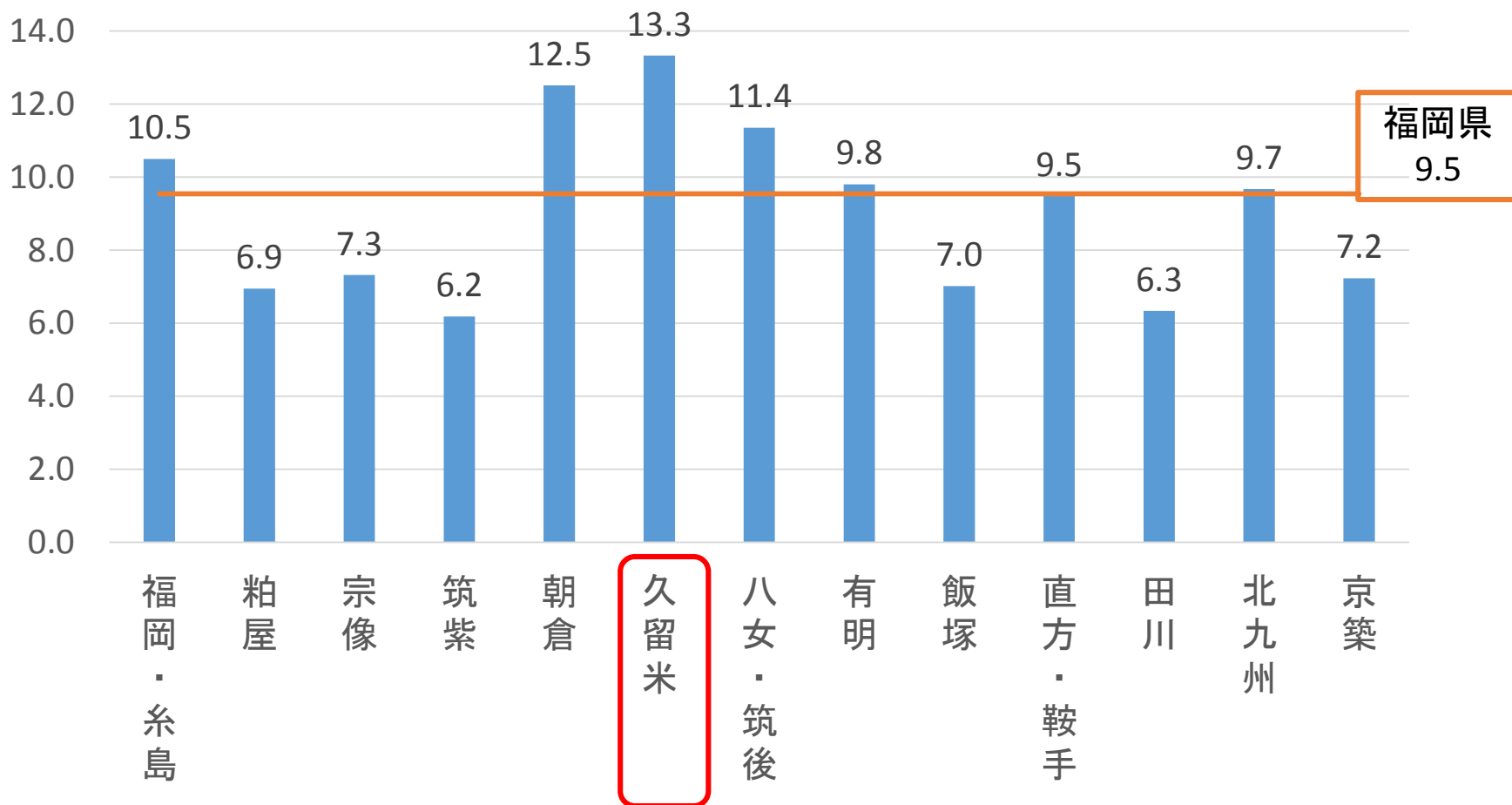
※可住地面積とは、総面積から林野面積及び主要湖面積（面積1km²以上の湖沼）を差し引いて算出したもの。

※在医総管は、平成29年度から調査対象としている。

在宅医療に取り組む医療機関数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※実数

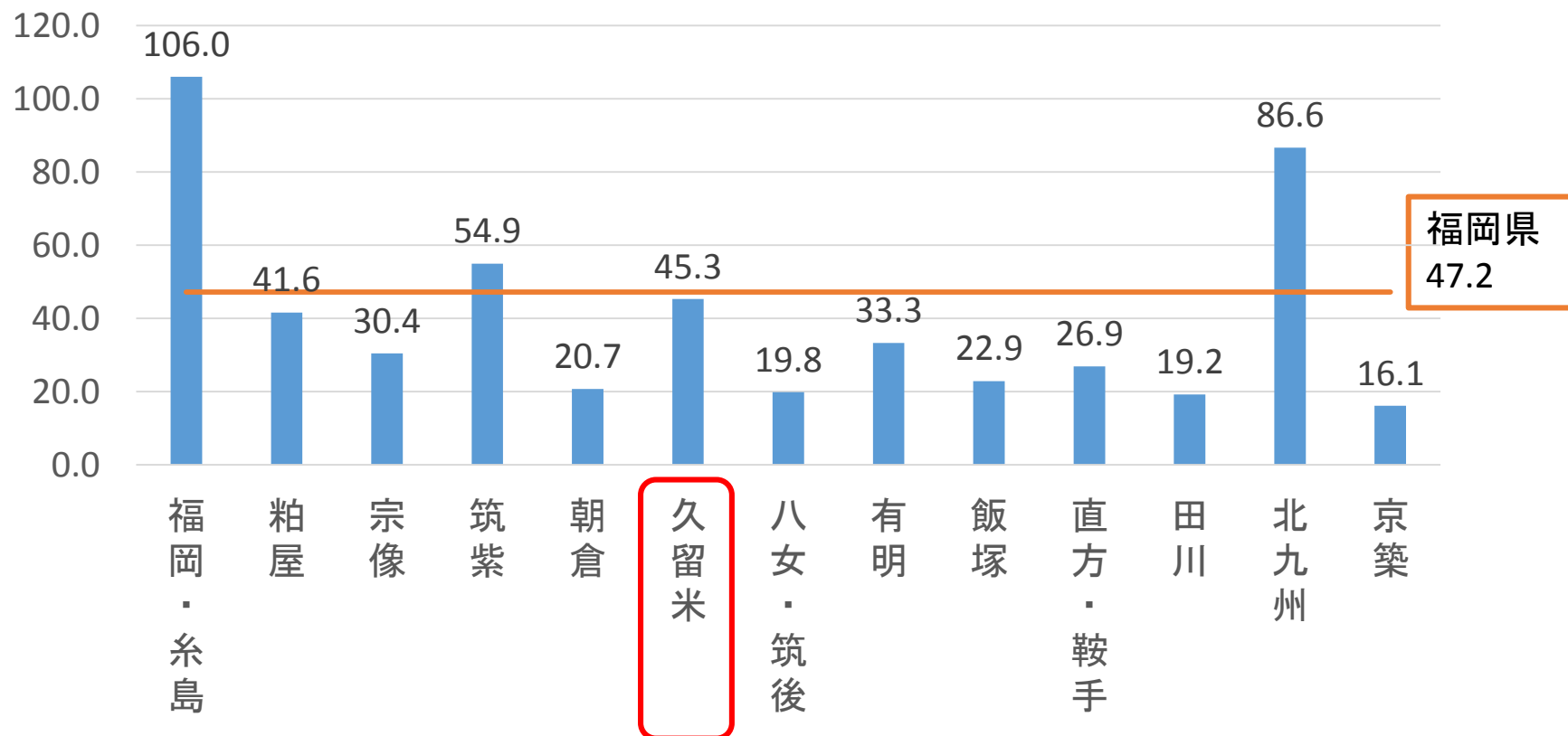
・久留米圏域は、県内で最も多い13.3施設であり、県平均(9.5施設)の1.4倍となっている。



※「在宅医療に取り組む医療機関数」とは、平成30年7月1日現在、九州厚生局に在支診・在診病・在医総管の届出を行っている県内の医療機関を指す。

在宅医療に取り組む医療機関数 (二次医療圏別・可住地面積100km²あたり) ※実数

- ・久留米圏域は、県内で4番目に多い45.3施設であり、県平均(47.2施設)の約96%となっている。
- ・大都市及びその近郊で県平均を上回っている。



※「在宅医療に取り組む医療機関数」とは、平成30年7月1日現在、九州厚生局に在支診・在診病・在医総管の届出を行っている県内の医療機関を指す。

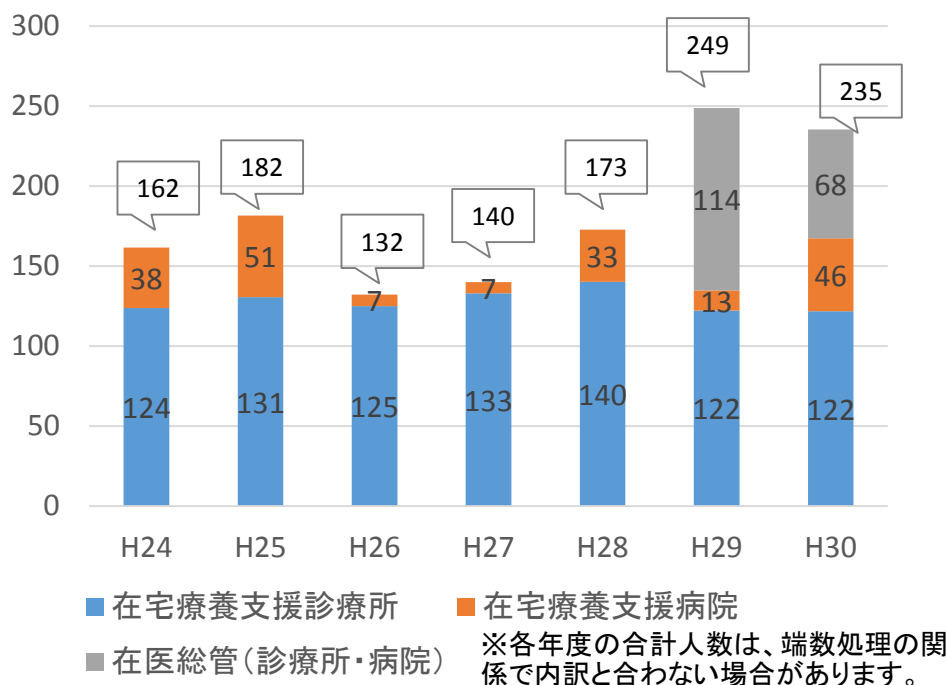
※可住地面積とは、総面積から林野面積及び主要湖面積(面積1km²以上の湖沼)を差し引いて算出したもの。

在宅医療に取り組む医師数(年次推移)

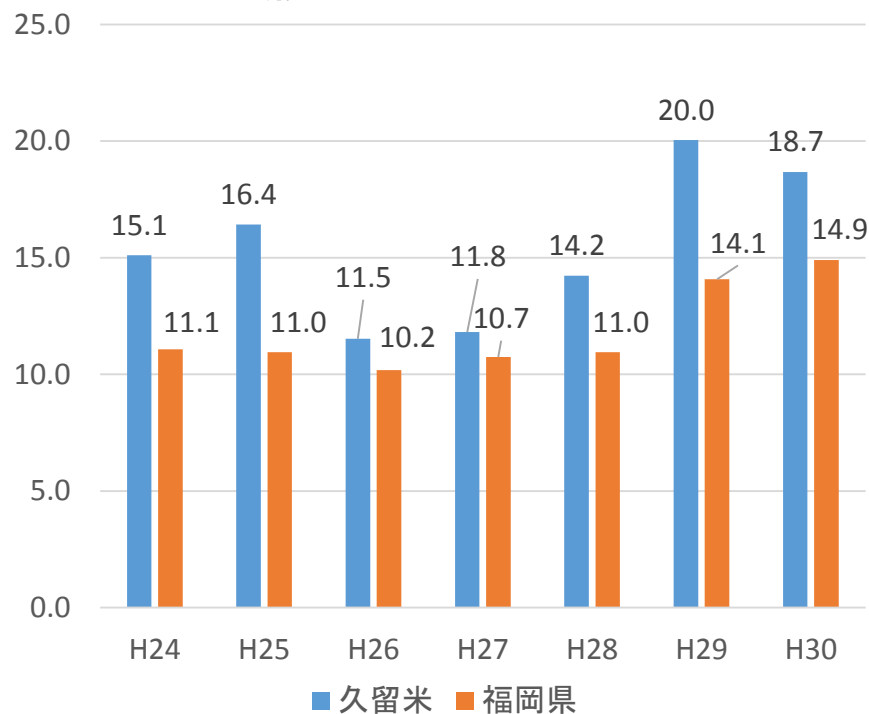
※推計値

- ・在宅療養支援診療所で在宅医療に取り組む医師数は、平成29年度に約20人減少し、その後は120人位で推移している。
- ・在宅医療に取り組む医師数(65歳以上人口1万人対)は、県平均の1.1～1.4倍前後で推移している。

在宅医療に取り組む医師数



在宅医療に取り組む医師数 (65歳以上人口1万人対)



※「在宅医療に取り組む医師数」とは、常勤換算した医師数を指す。

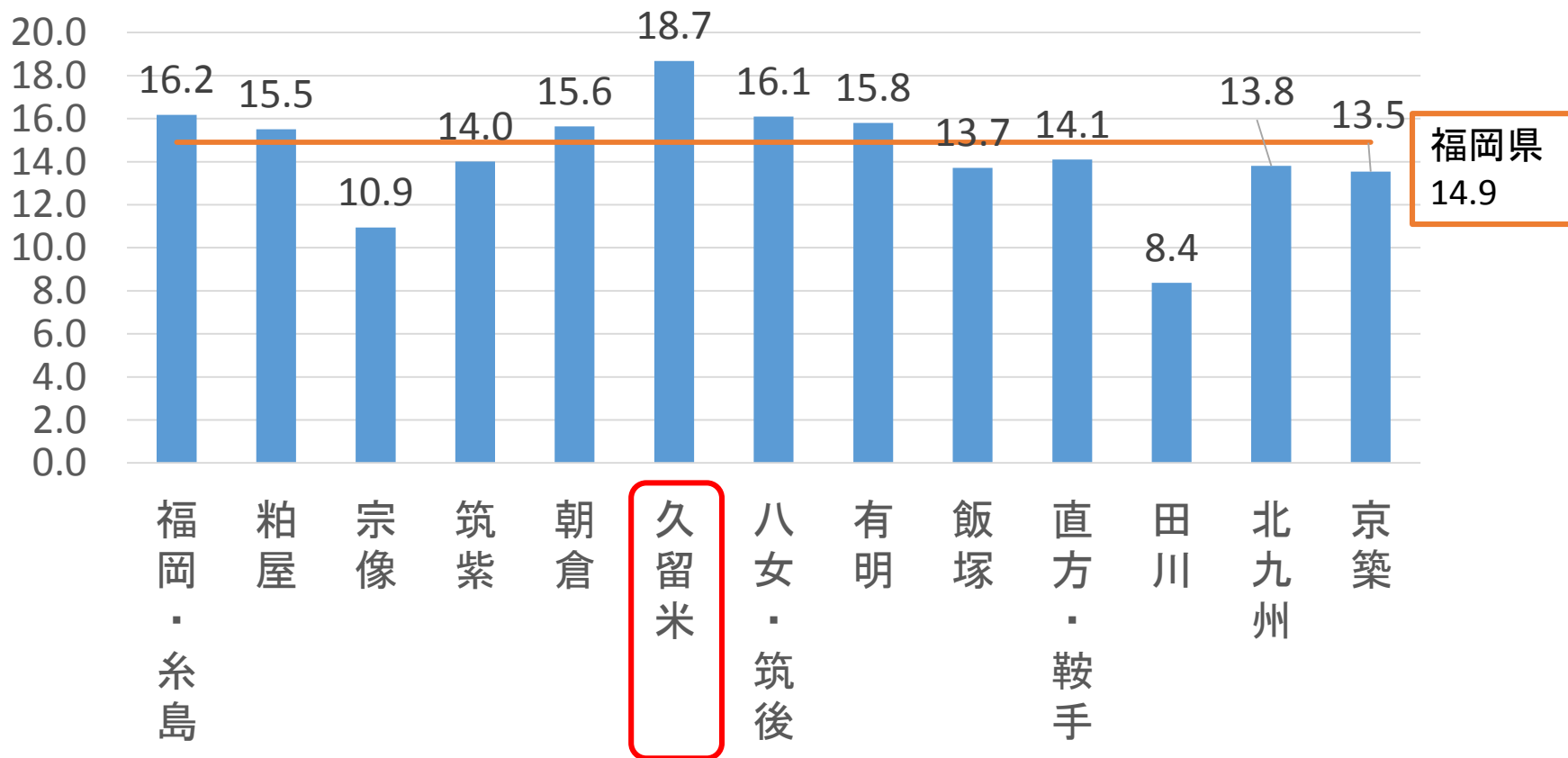
※推計値について

平成24年度～H28年度は2区分(在支診・在診病)、平成29年度は3区分(在支診・在診病・在医総管)に分けて推計し報告しているが、平成30年度からは届出を8区分(在支診1～3、在診病1～3、在医総管(診療所・病院))に分けて推計することとしており、年次比較をするため、平成24年度～28年度までの訪問診療患者数は6区分(在支診1～3、在診病1～3)、平成29年度は7区分(在支診1～3、在支病1～3、在医総管)に分けて推計し直している。なお、平成29年度は在医総管を診療所と病院に分けて調査を行っていないため、7区分で推計し直している。

在宅医療に取り組む医師数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※推計値

・久留米圏域は、県内で最も多い18.7人であり、県平均(14.9人)の約1.3倍となっている。

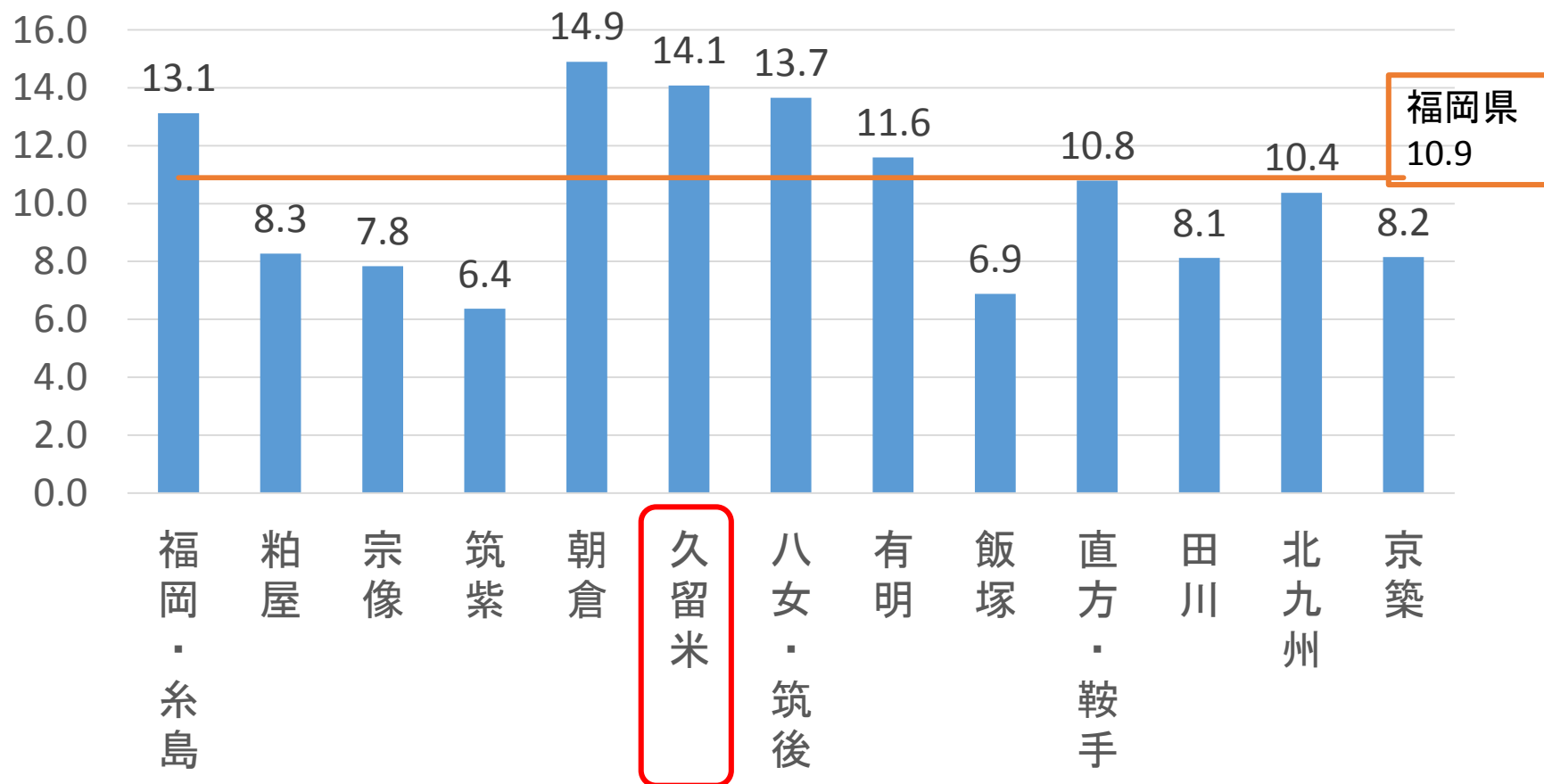


※「在宅医療に取り組む医師数」とは、常勤換算した医師数を指す。

在宅医療に取り組む診療所の医師数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※推計値

・久留米圏域は、県内で2番目に多い14.1人であり、県平均(10.9人)の約1.3倍となっている。

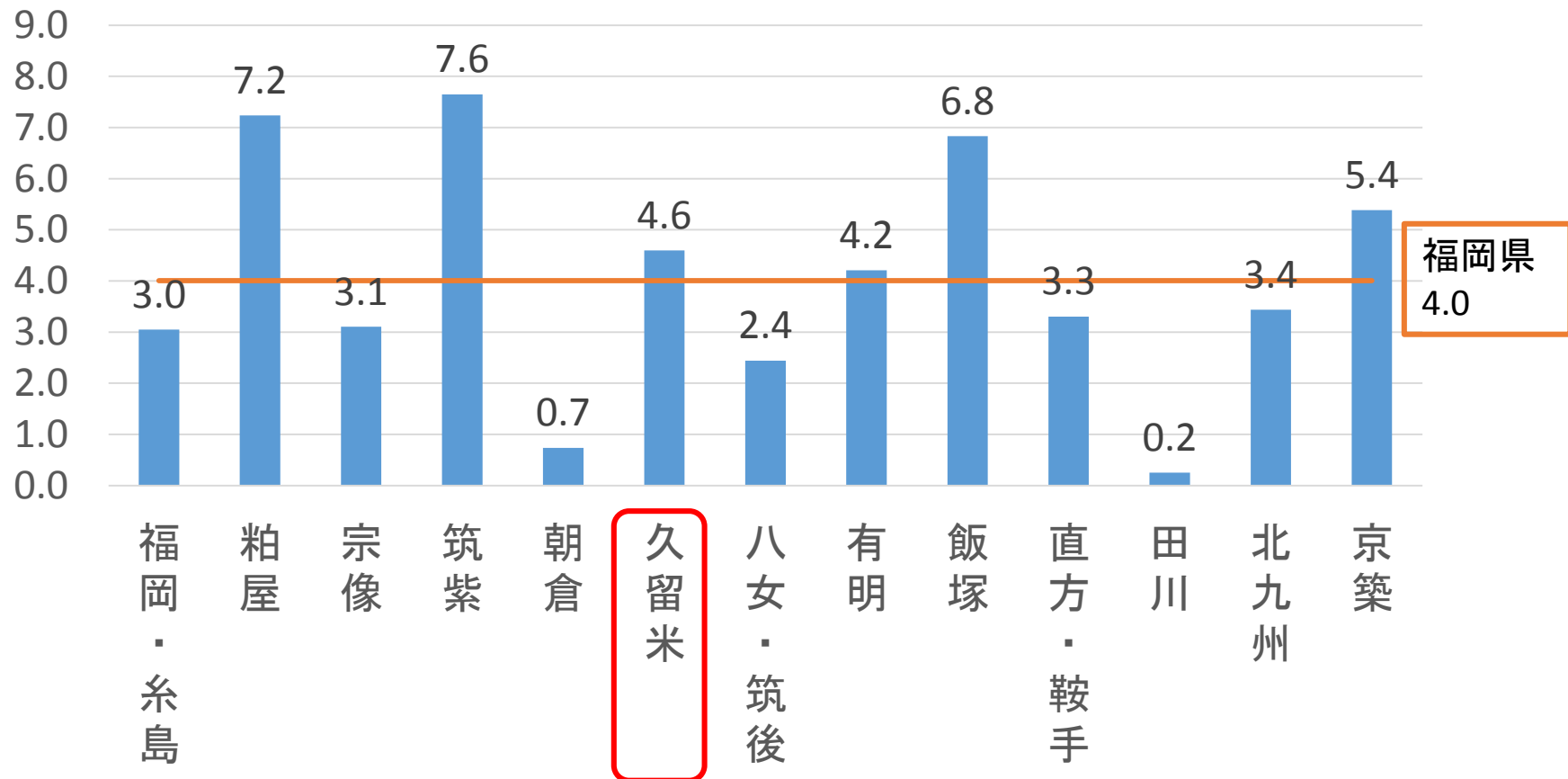


※「在宅医療に取り組む医師数」とは、常勤換算した医師数を指す。

在宅医療に取り組む病院の医師数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※推計値

・久留米圏域は、県内で5番目に多い4.6人であり、県平均(4.0人)の1.15倍となっている。



※「在宅医療に取り組む医師数」とは、常勤換算した医師数を指す。

※実数

- 福岡・糸島 N=771

年代	人数
20代	13
30代	133
40代	180
50代	204
60代	165
70歳以上	76

粕屋 N=131

年代	人数
20代	0
30代	25
40代	37
50代	32
60代	20
70歳以上	17

宗像 N=89

年代	人数
20代	2
30代	26
40代	21
50代	23
60代	8
70歳以上	9

筑紫 N=117

年代	人数
20代	5
30代	23
40代	24
50代	27
60代	27
70歳以上	11

朝倉 N=45

年代	人数
20代	1
30代	5
40代	4
50代	11
60代	18
70歳以上	6

久留米 N=248

年代	人数
20代	4
30代	27
40代	51
50代	58
60代	65
70歳以上	43

八女・筑後 N=88

年代	人数
20代	1
30代	14
40代	18
50代	15
60代	29
70歳以上	11

有明 N=145

年代	人数
20代	3
30代	20
40代	18
50代	37
60代	41
70歳以上	26

飯塚 N=100

年代	人数
20代	5
30代	26
40代	18
50代	21
60代	16
70歳以上	14

直方・鞍手 N=92

年代	人数
20代	9
30代	31
40代	15
50代	14
60代	17
70歳以上	6

田川 N=43

年代	人数
20代	0
30代	3
40代	10
50代	10
60代	12
70歳以上	8

北九州 N=569

年代	人数
20代	4
30代	94
40代	115
50代	132
60代	135
70歳以上	89

京築 N=149

年代	人数
20代	5
30代	41
40代	31
50代	30
60代	32
70歳以上	10

福岡県 N=2,587

年代	人数
20代	52
30代	468
40代	542
50代	614
60代	585
70歳以上	326

Legend: 20代 (blue), 30代 (orange), 40代 (grey), 50代 (yellow), 60代 (dark blue), 70歳以上 (green)

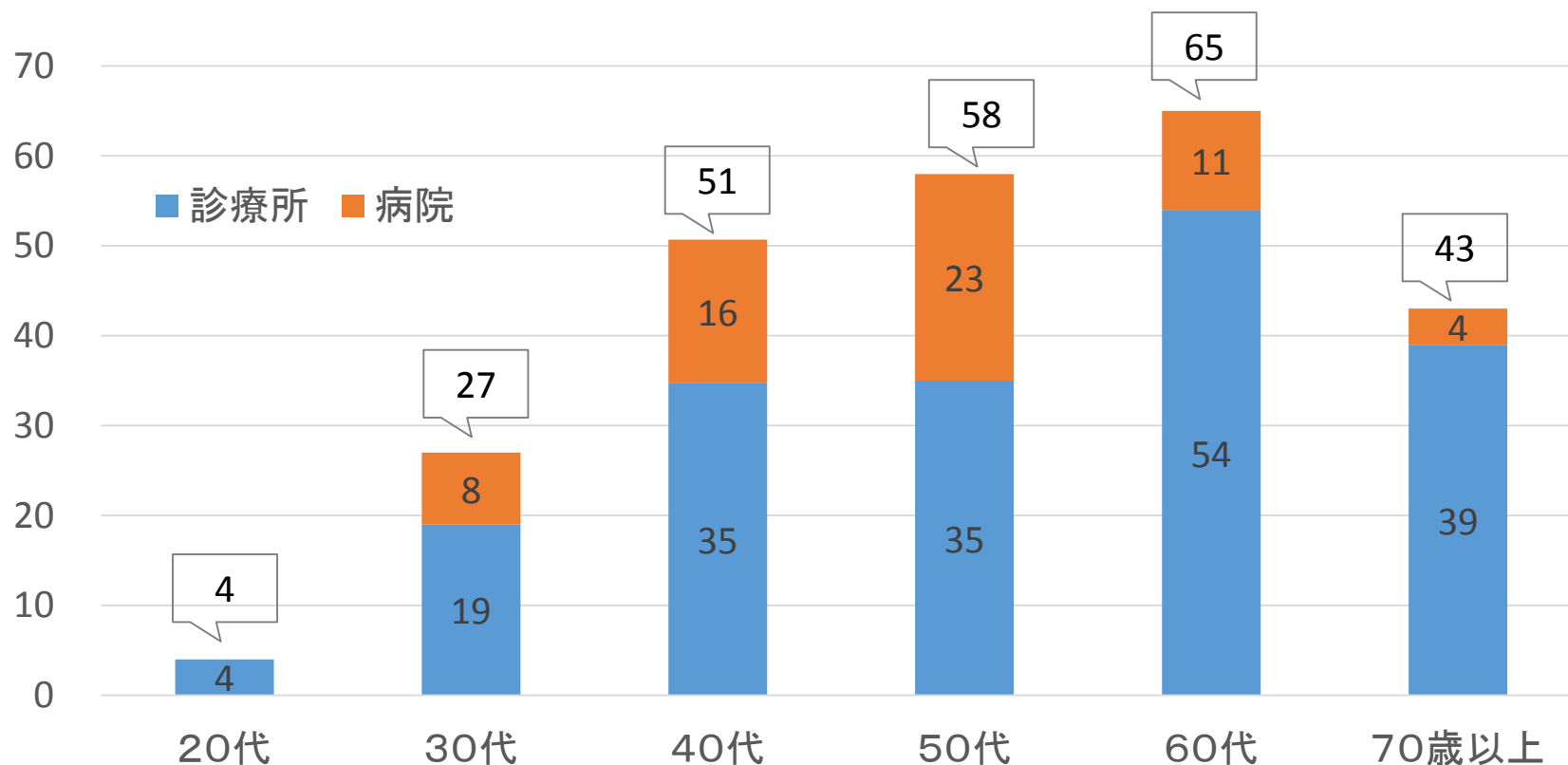
※「在宅医療に取り組む医師数」とは、医師の実人数を指す。

在宅医療に取り組む医師数(年齢別)

※実数

・診療所は60代の医師が最も多く、病院は50代の医師が最も多い。

在宅医療に取り組む医師数(年齢別)



※在医総管を含む

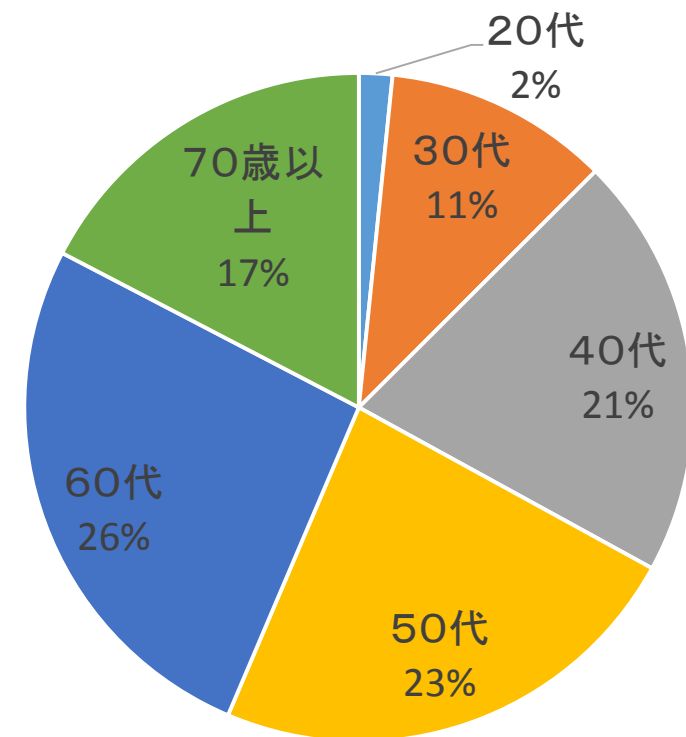
※「在宅医療に取り組む医師数」とは、医師の実人数を指す。

在宅医療に取り組む医師数（年齢別）

※実数

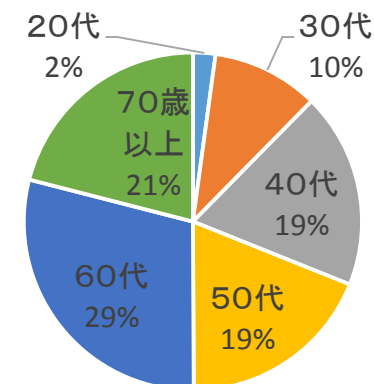
- ・60歳以上の医師が全体の4割強、70歳以上の医師が全体の2割弱を占めている。
- ・診療所における60歳以上の医師の割合は5割、病院における60歳以上の医師の割合は約4分の1である。

在宅医療に取り組む医師の割合（年齢別・合計）



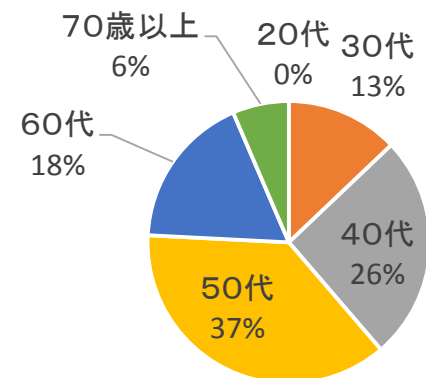
N=248

在宅医療に取り組む医師の割合（年齢別・診療所のみ）



N=186

在宅医療に取り組む医師の割合（年齢別・病院のみ）



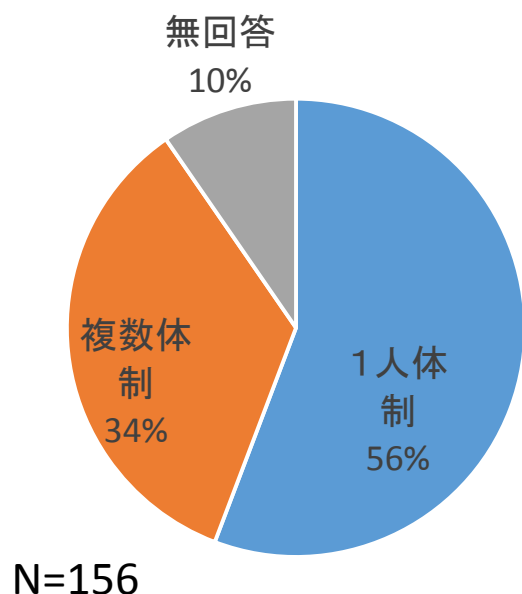
N=62

※「在宅医療に取り組む医師数」とは、医師の実人数を指す。

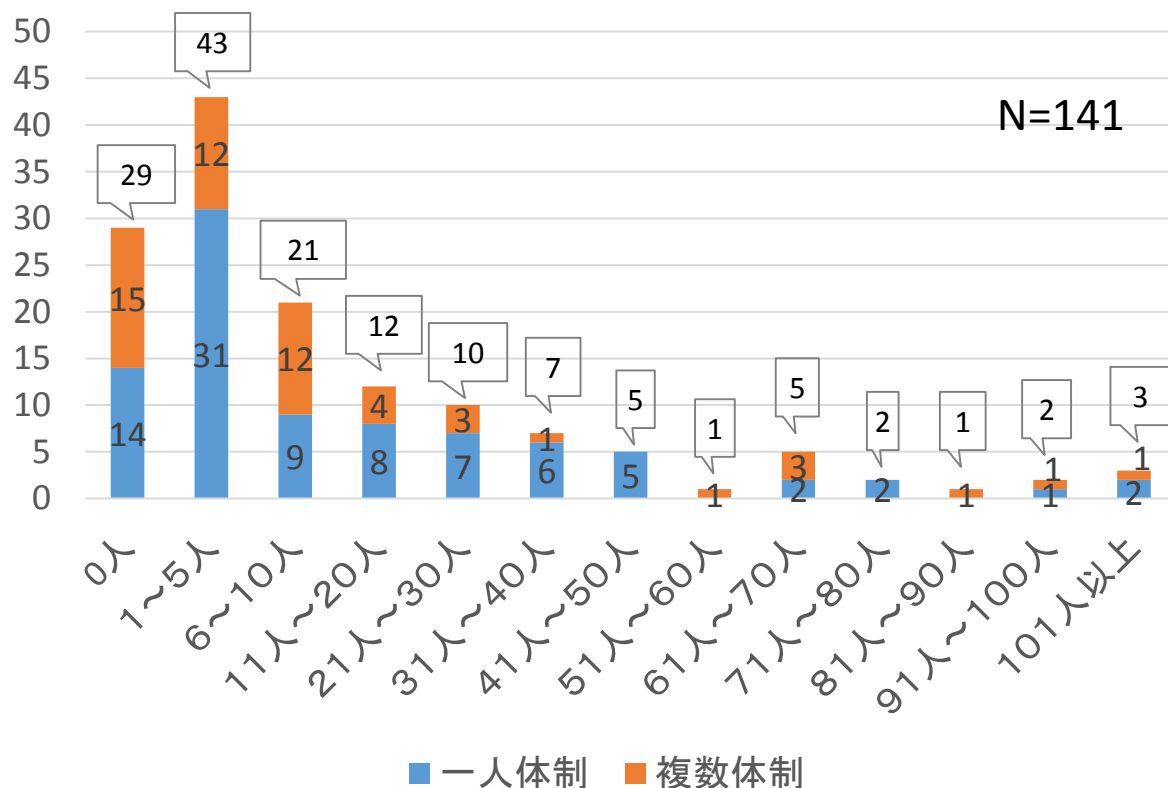
在宅医療に取り組む医療機関数(体制別) ※実数

- ・医師1人体制の医療機関は87施設、医師複数体制の医療機関は54施設である。
- ・1医療機関あたりの訪問診療患者数が1～5人の医療機関が最も多く、医師1人体制の医療機関は31施設、医師複数体制の医療機関は12施設である。

医療機関数(体制別)



医療機関数(訪問診療患者数別)



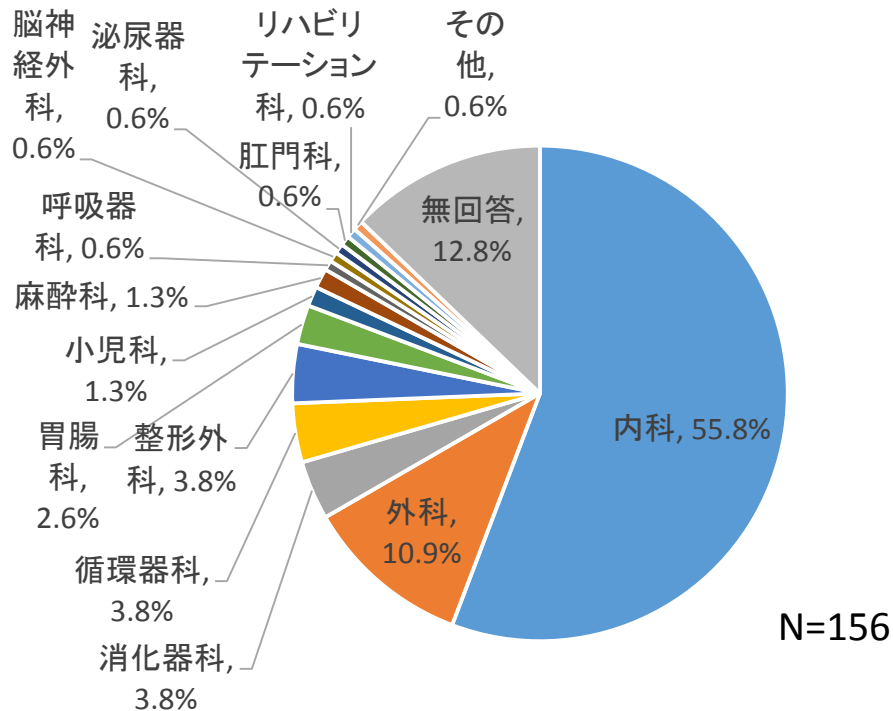
※「訪問診療患者数」とは、7月の1ヶ月間に訪問診療の算定を行った患者数を指す。

在宅医療に取り組む医療機関の主たる診療科・病床数

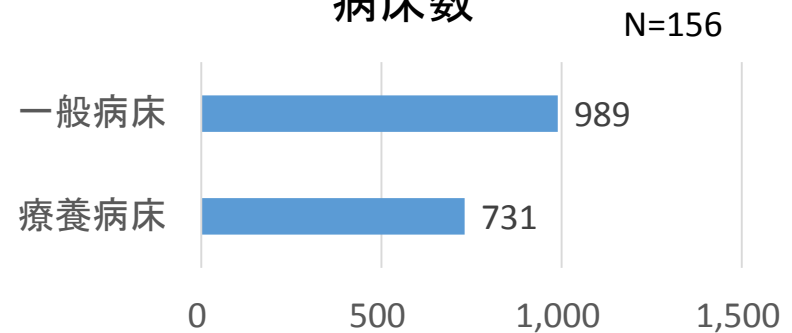
※実数

- ・在宅医療に取り組む医療機関の主たる診療科は、約6割が内科である。
- ・在宅医療に取り組む医療機関が有する病床のうち、一般病床は989床、療養病床は731床であり、一般病床は療養病床の約1.4倍となっている。
- ・在宅医療に取り組む医療機関数を病床の有無別にみると、無床の割合は70%、有床割合は30%となっている。

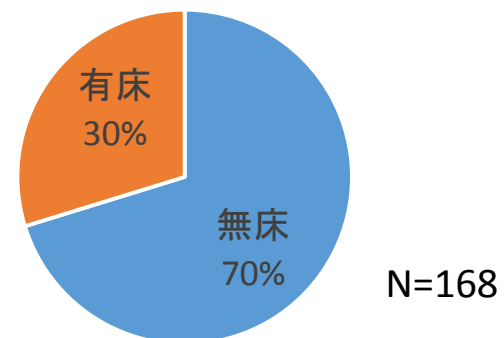
主たる診療科



病床数



無床と有床の割合

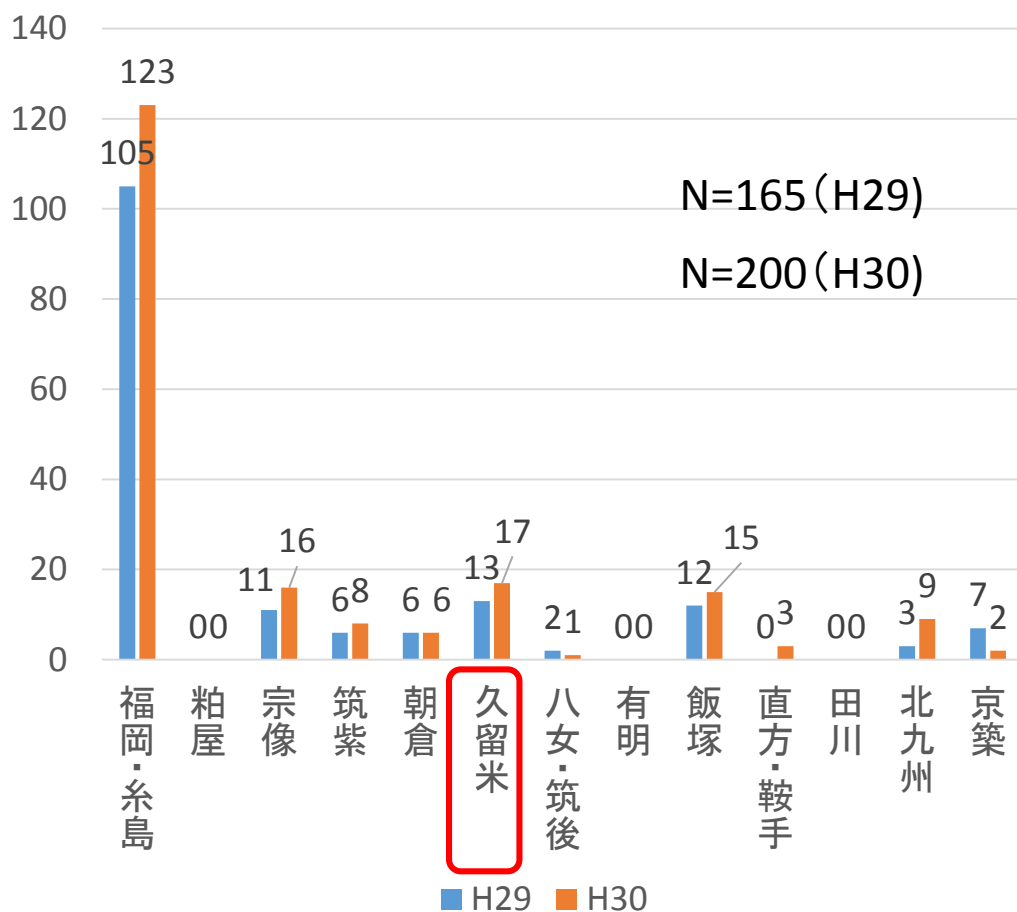


19歳以下の訪問診療患者数(年次比較)

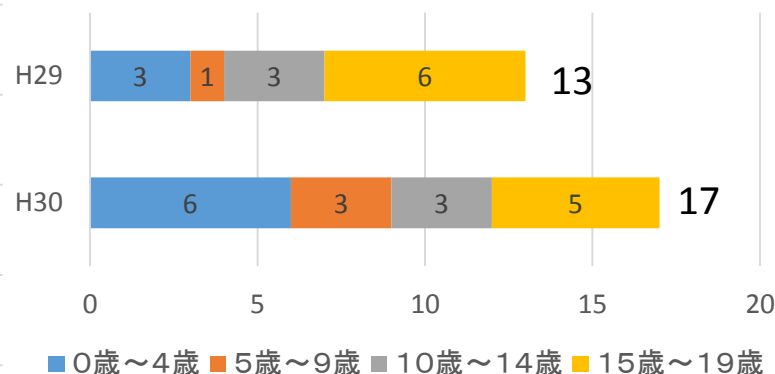
※実数

- ・久留米圏域は、平成29年度から平成30年度にかけて患者数が増加し、福岡・糸島圏域に次いで2番目に多い圏域となっている。患者がいる医療機関数に変化はみられない。
- ・平成30年度では、福岡・糸島圏域(123人)が県全体(200人)の約6割を占める一方、3圏域(粕屋・有明・田川)は0人であり、圏域により取組状況が大きく異なっている。

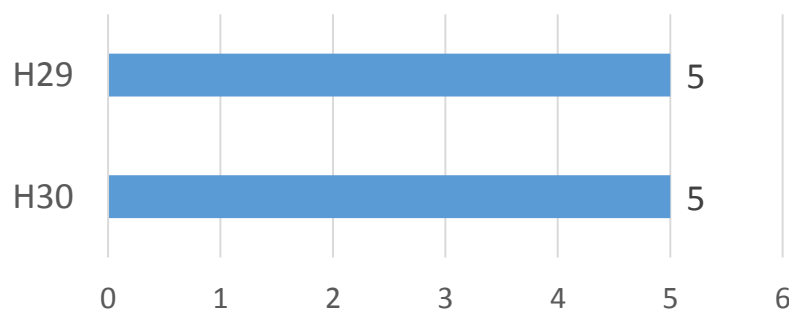
19歳以下の訪問診療患者数(二次医療圏別)



19歳以下の訪問診療患者数(当圏域)



19歳以下の訪問診療患者がいる医療機関数(当圏域)

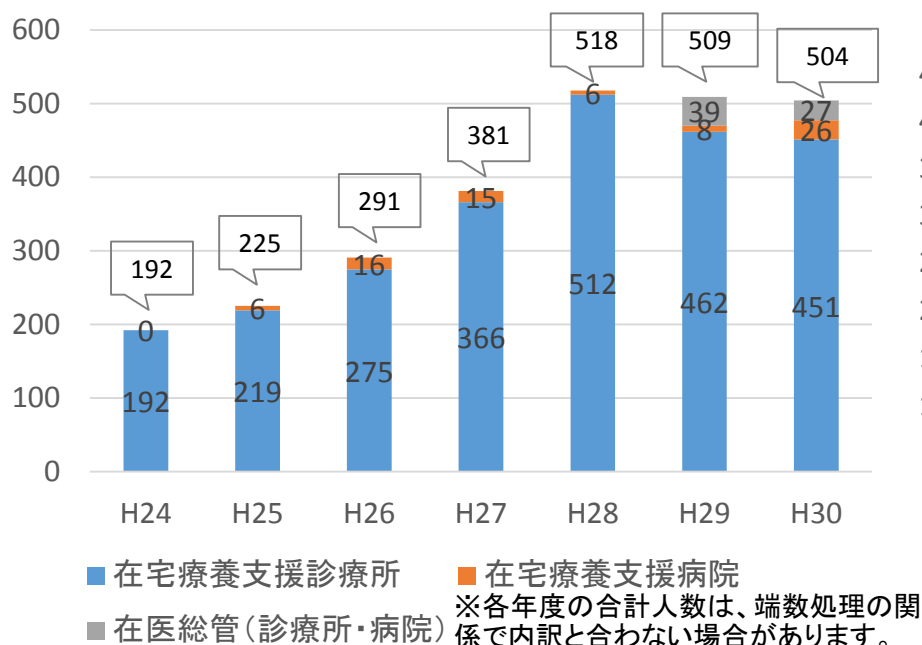


在宅看取り患者数（年次推移）

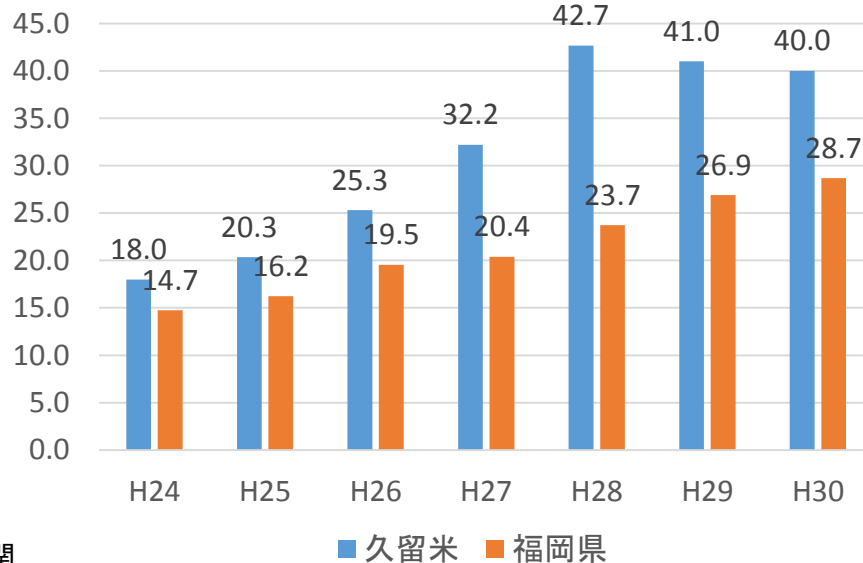
※推計値

- ・看取り患者数（推計値）は平成28年度をピークに、微減傾向にある。
- ・看取り患者数（推計値・65歳以上人口1万人対）は、ピーク期の平成28年度には県平均の約1.8倍となっていたが、その後格差はやや減少し、平成30年度は県平均の約1.4倍となっている。

在宅看取り患者数



在宅看取り患者数 （65歳以上人口1万人対）



※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。（H24～H28については、4月～7月までの4ヶ月に在宅で看取りを行った人数を3倍した人数を指す。）

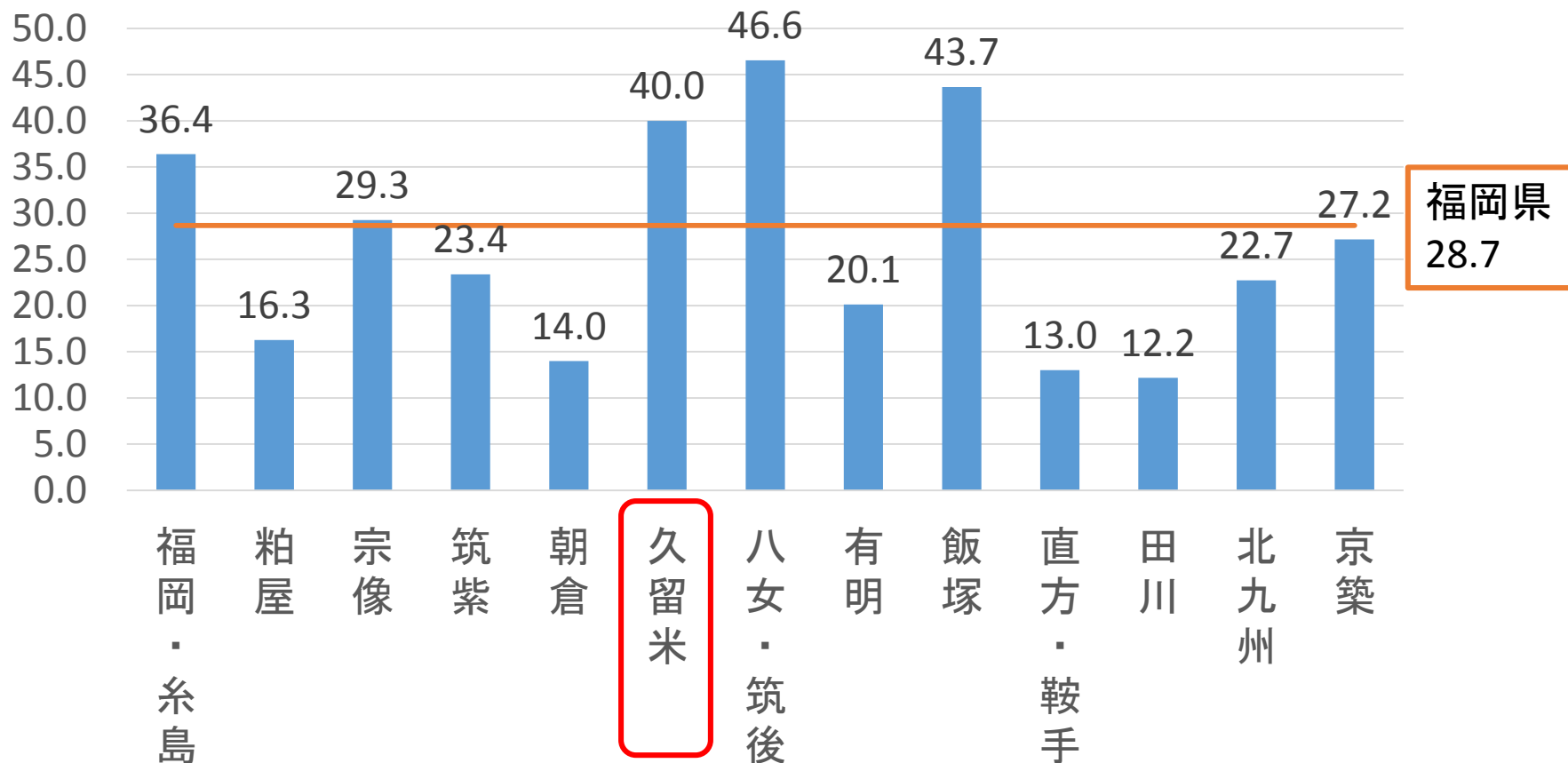
※推計値について

平成24年度～H28年度は2区分（在支診・在診病）、平成29年度は3区分（在支診・在診病・在医総管）に分けて推計し報告しているが、平成30年度からは届出を8区分（在支診1～3、在診病1～3、在医総管（診療所・病院））に分けて推計することとしており、年次比較をするため、平成24年度～28年度までの訪問診療患者数は6区分（在支診1～3、在診病1～3）、平成29年度は7区分（在支診1～3、在支病1～3、在医総管）に分けて推計し直している。なお、平成29年度は在医総管を診療所と病院に分けて調査を行っていないため、7区分で推計し直している。

在宅看取り患者数

(二次医療圏別・65歳以上人口1万人対) ※推計値

・久留米圏域は県内で3番目に多い40.0人であり、県平均(28.7人)の約1.4倍となっている。

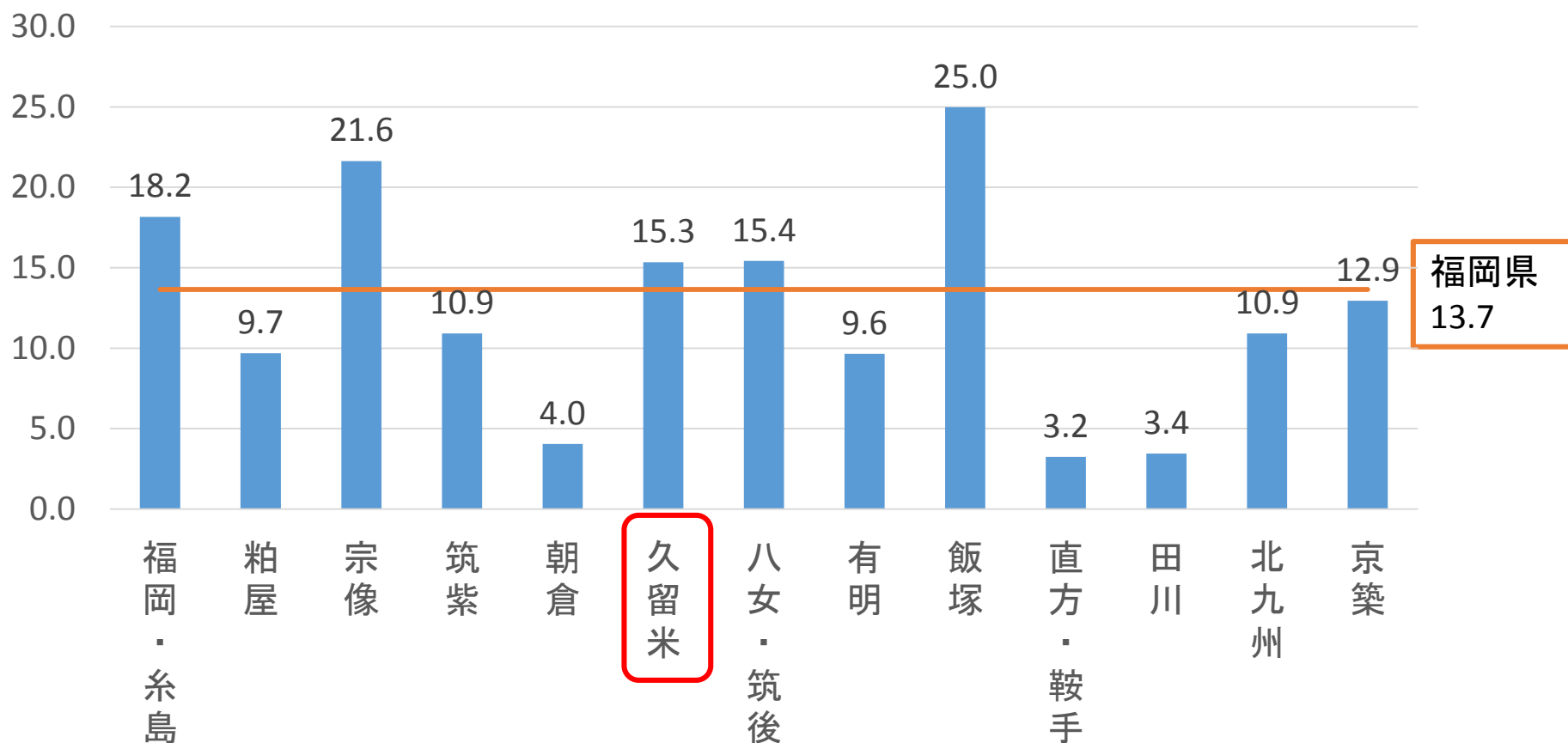


※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。

自宅での看取り患者数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※推計値

・久留米圏域は県内で5番目に多い15.3人であり、県平均(13.7人)の約1.1倍となっている。

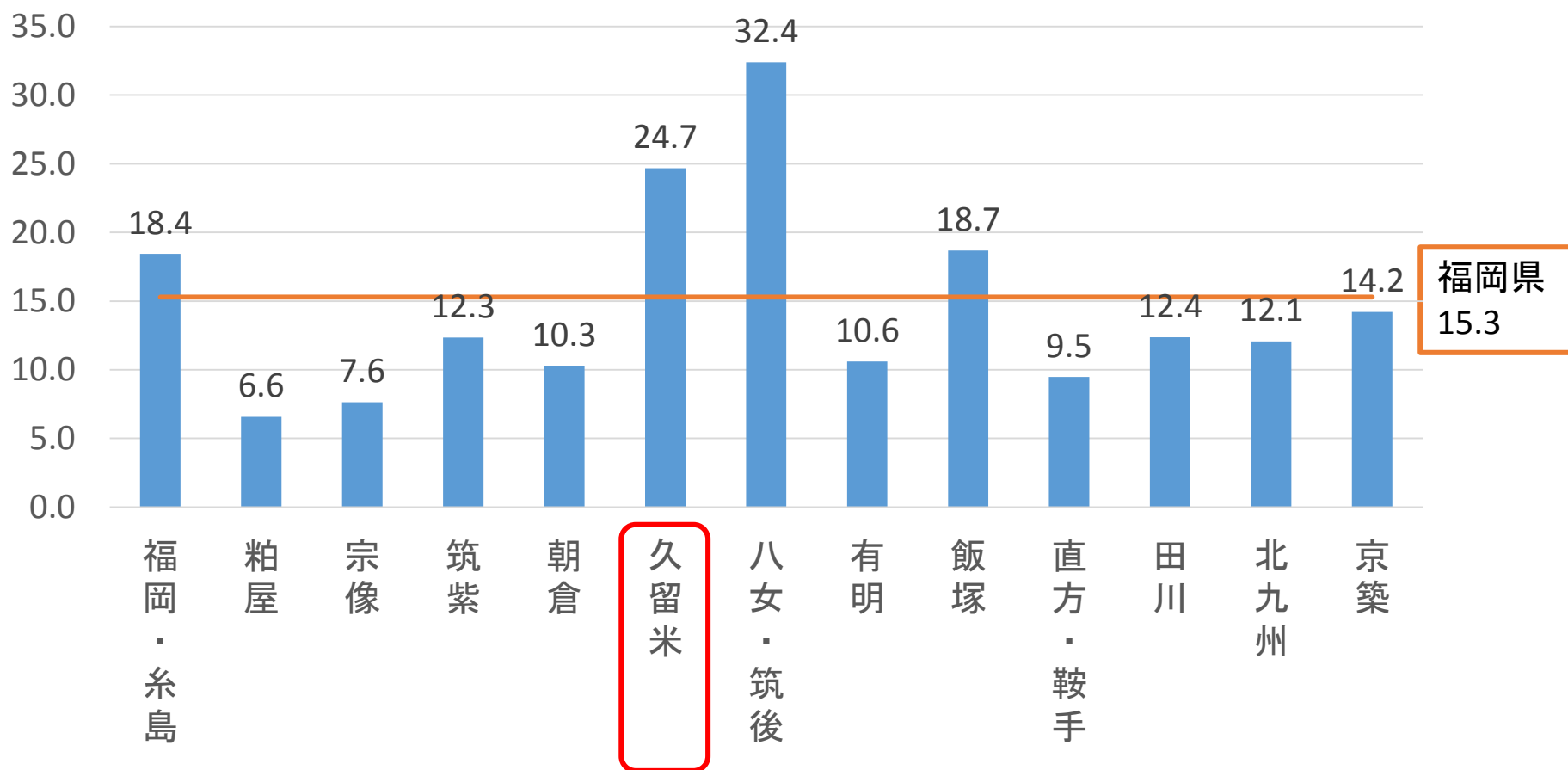


※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。

自宅以外での看取り患者数 (二次医療圏別・65歳以上人口1万人対)

※推計値

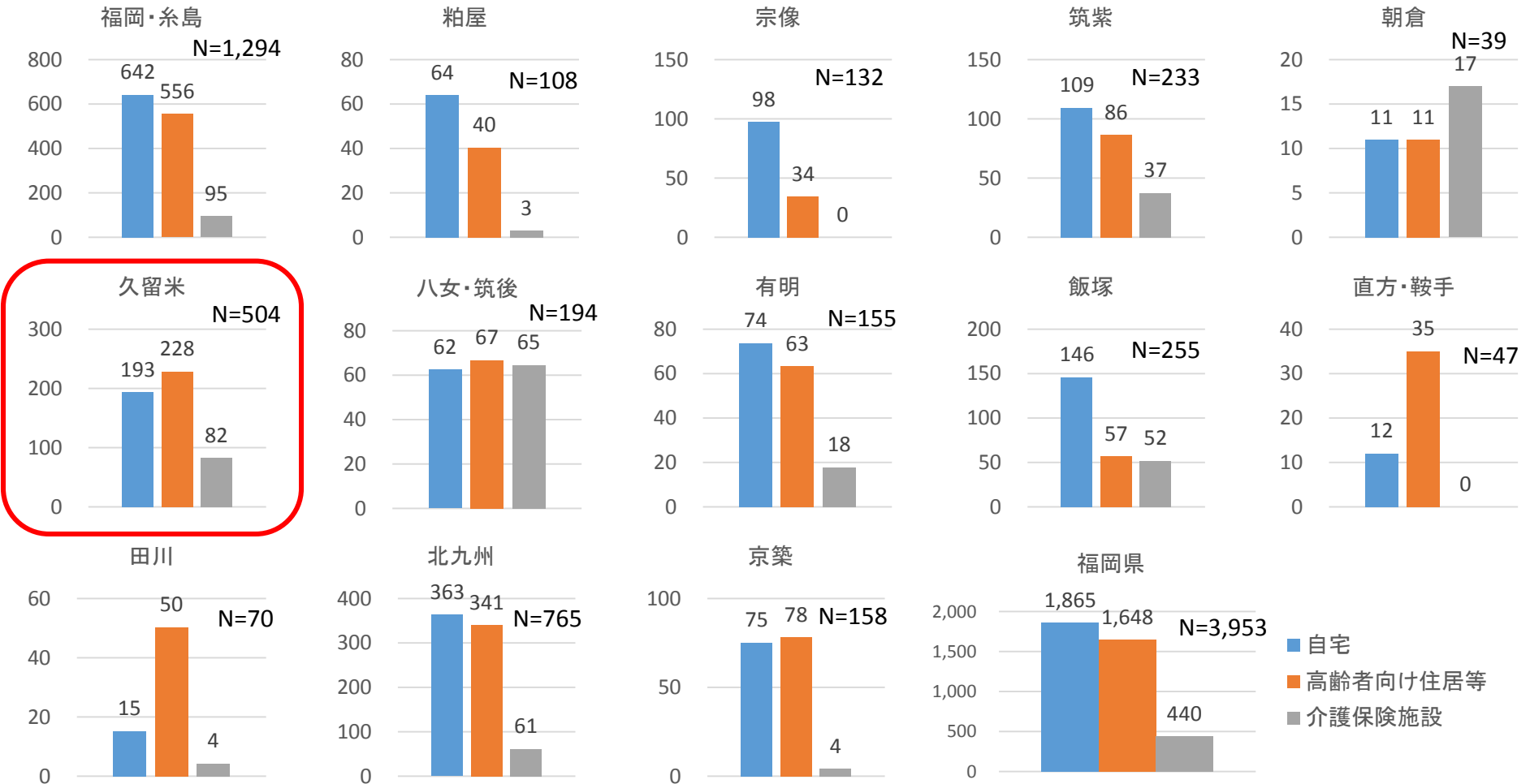
・久留米圏域は県内で2番目に多い24.7人であり、県平均(15.3人)の約1.6倍となっている。



※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。

在宅看取り患者数(二次医療圏別・居所別) ※推計値

・居所別(自宅・高齢者向け住居等・介護保険施設)の在宅看取り患者数を比較すると、久留米圏域では高齢者向け住居等(228人)が約45%を占めて最も多くなっており、県全体(自宅の割合が約47%で最多)と異なる傾向となっている。



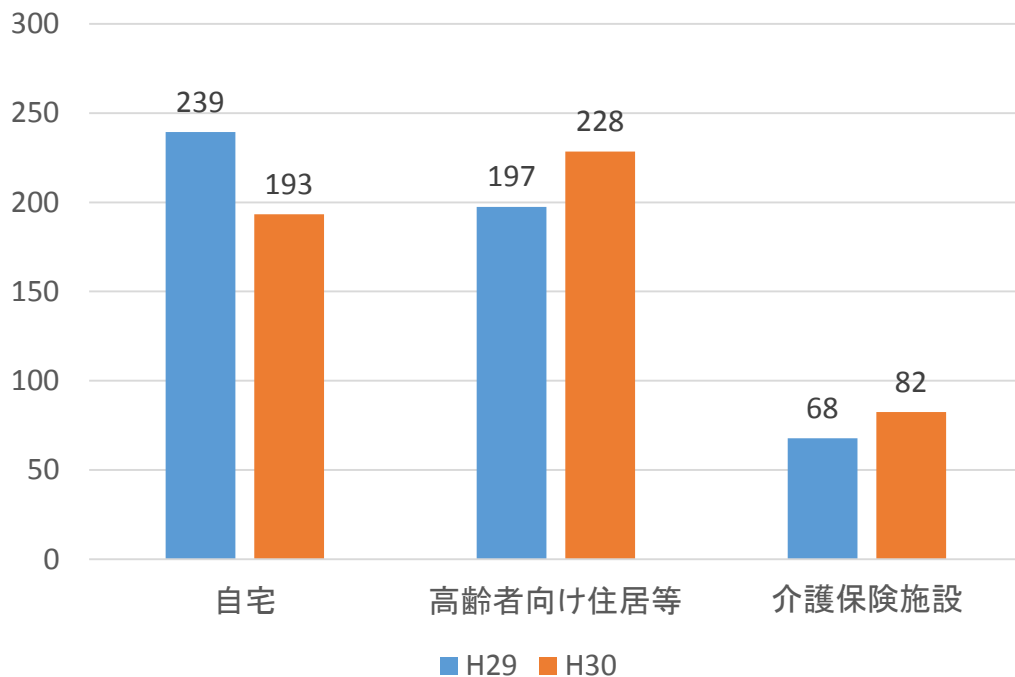
※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。
※端数処理の関係で、合計と内訳が合わない場合があります。
※無回答の医療機関があるため、各年度の合計人数はP.11下の訪問診療患者数と合わない場合があります。

在宅看取り患者数（居所別）

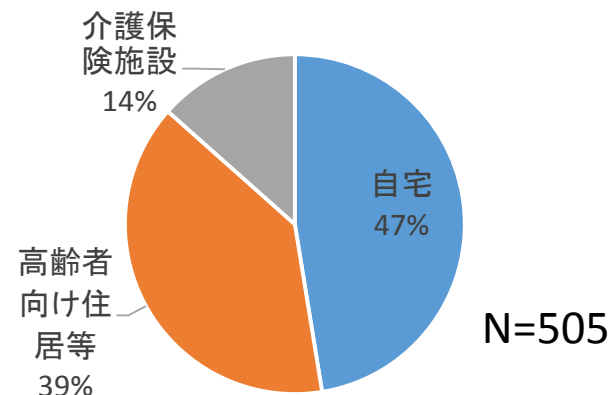
※推計値

- ・自宅での看取り患者数は前年度に比べて減少し、割合も9ポイント低下している。
- ・高齢者向け住居等での看取り患者数は増加しており、割合も6ポイント上昇している。
- ・介護保険施設での看取り患者数も増加しており、割合も3ポイント上昇している。

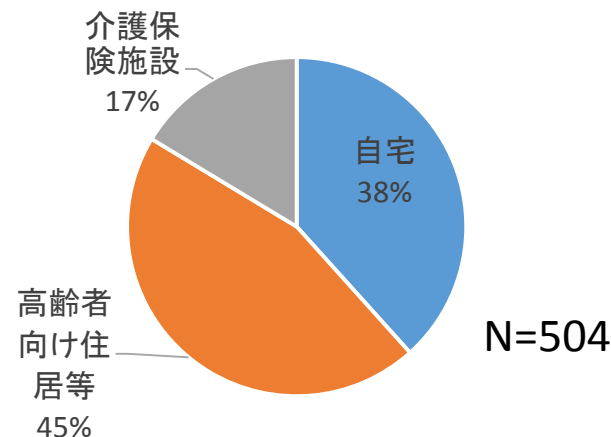
看取り患者数



看取り患者数（H29）の割合（居所別）



看取り患者数（H30）の割合（居所別）



※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。

※端数処理の関係で、内訳と合計が合わない場合があります。

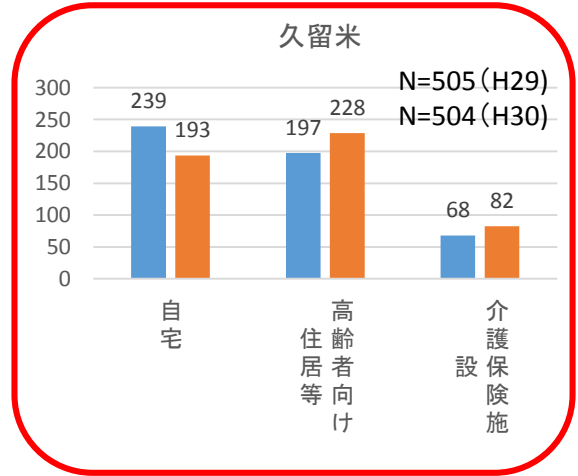
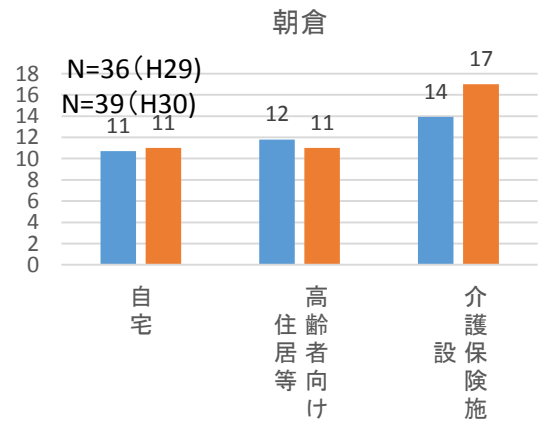
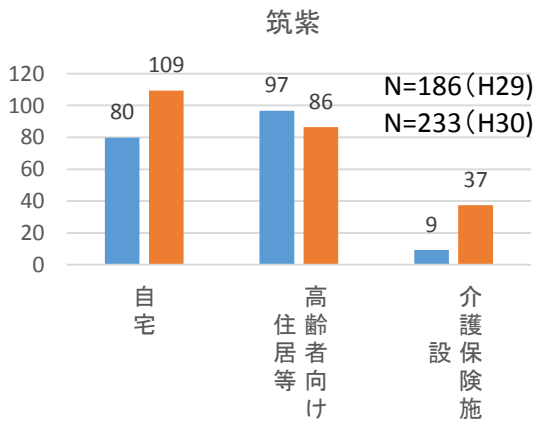
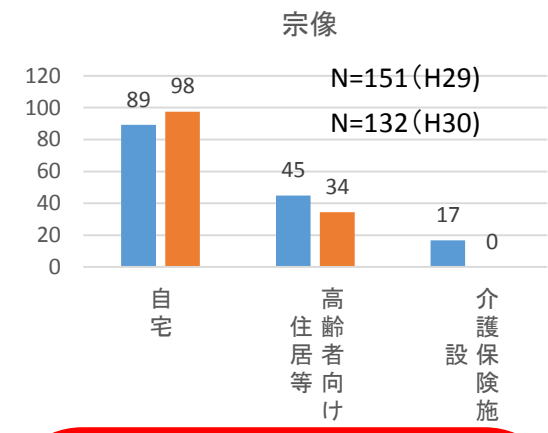
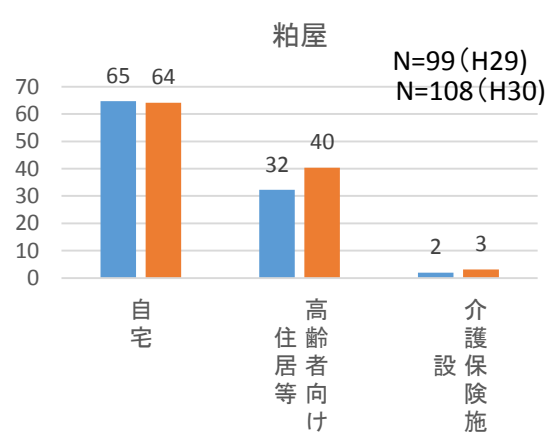
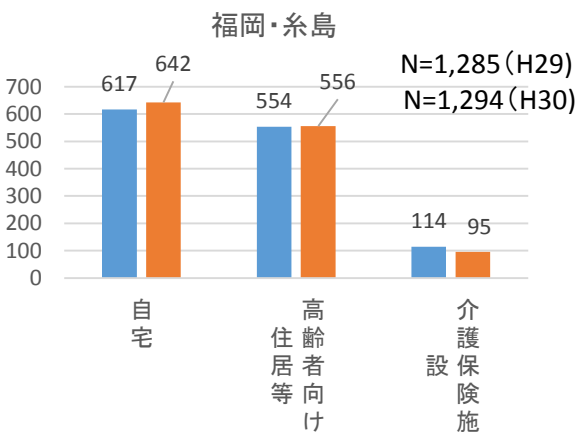
※無回答の医療機関があるため、P11下の在宅看取り患者数と合わない場合があります。

在宅看取り患者数(二次医療圏別・居所別・年次比較) 1/2

※推計値

・居所別(自宅・高齢者向け住居等・介護保険施設)の在宅看取り患者数をみると、久留米圏域では「高齢者向け住居等」や「介護保険施設」で前年度に比べて増加している一方、「自宅」では減少している。

・県全体では「自宅」、「高齢者向け住居等」、「介護保険施設」の全てで増加しており、久留米圏域では「自宅」に関して県全体と異なる傾向となっている。

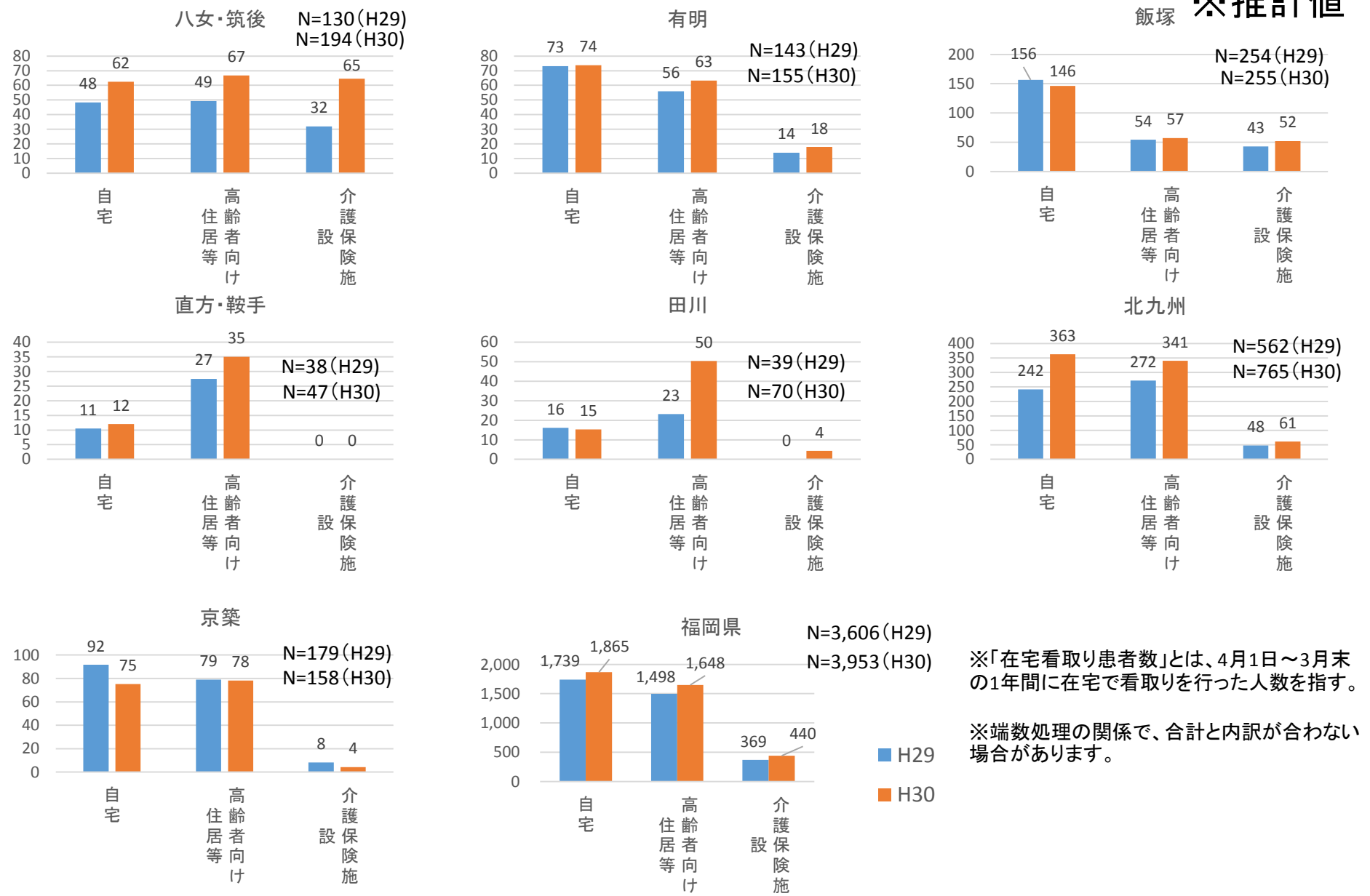


※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。

※端数処理の関係で、合計と内訳が合わない場合があります。

在宅看取り患者数(二次医療圏別・居所別・年次比較) 2/2

※推計値



※「在宅看取り患者数」とは、4月1日～3月末の1年間に在宅で看取りを行った人数を指す。

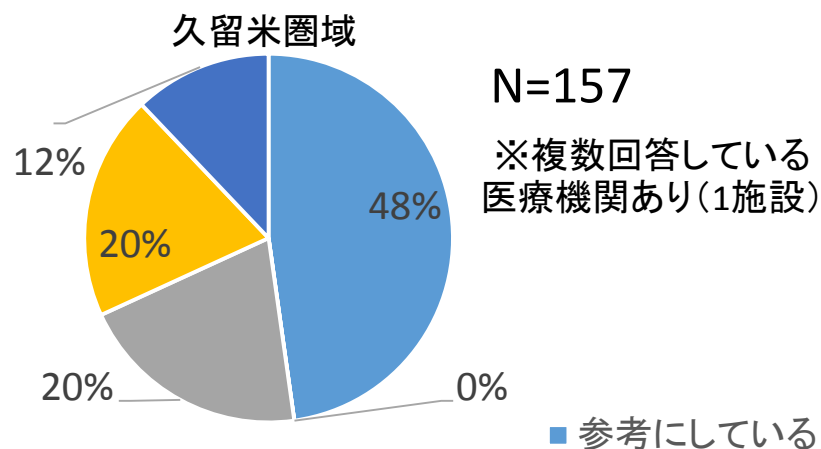
※端数処理の関係で、合計と内訳が合わない場合があります。

終末期医療の状況

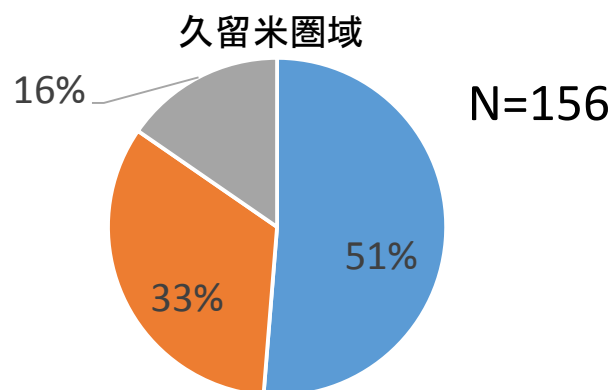
(終末期医療に関するガイドライン・ACPについて)

- ・終末期医療を行うにあたり、ガイドラインを参考にしているのは約5割である。
- ・アドバンス・ケア・プランニングを行っている医療機関は約5割である。
- ・県全体と比較すると、ガイドラインを「参考にしている」割合が3ポイント高く、アドバンス・ケア・プランニングを「行っている」割合が6ポイント高くなっている。

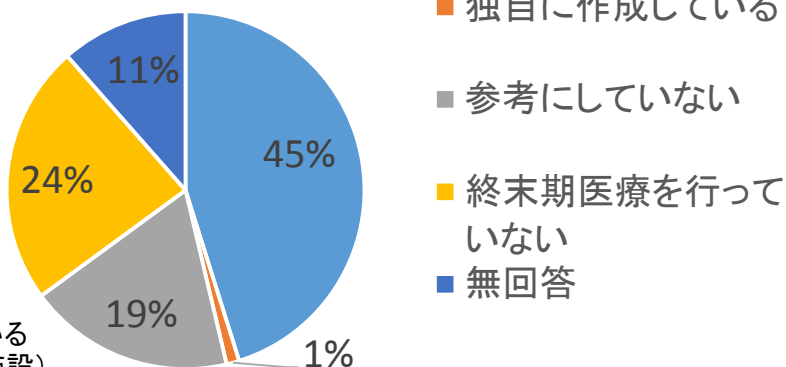
ガイドラインを参考にしているか



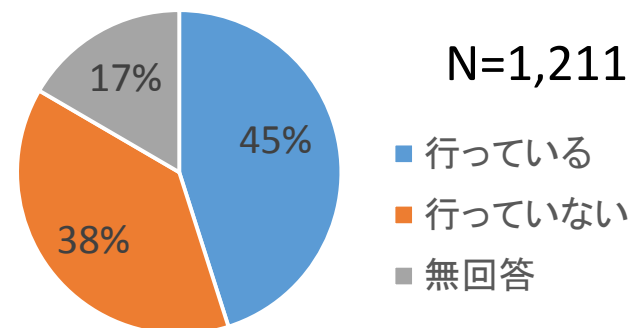
ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を行っているか



福岡県



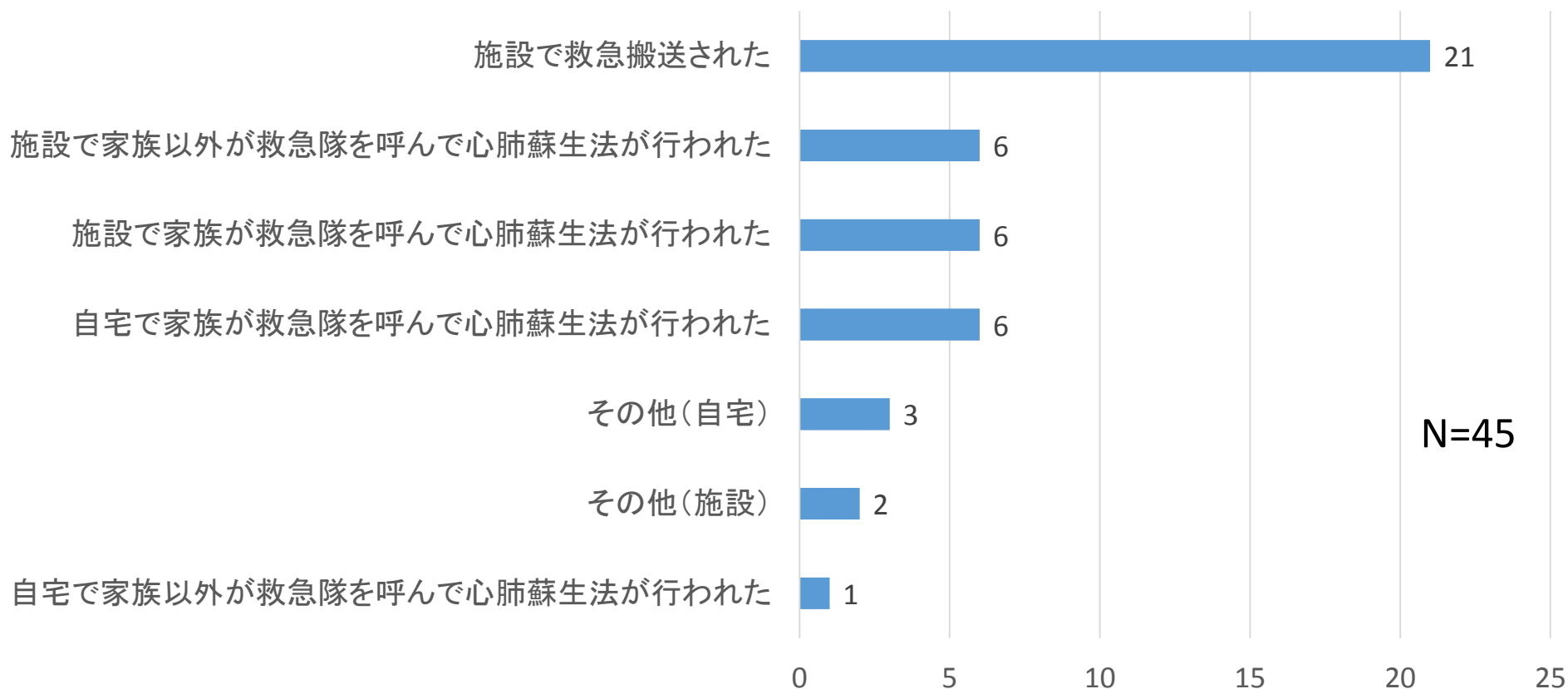
福岡県



終末期医療の状況 (望まない医療について)

※平成29年4月～平成30年3月末まで

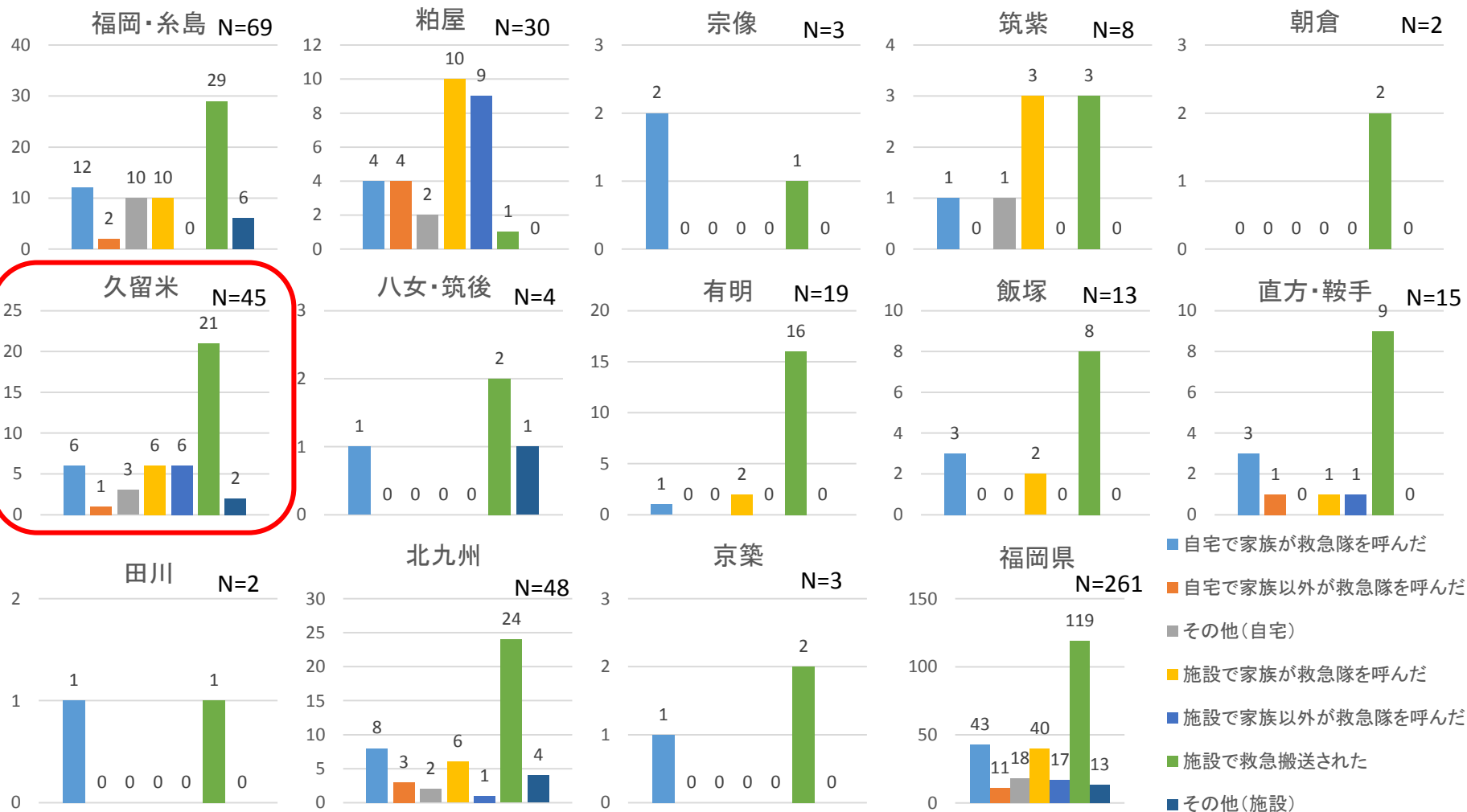
・看取りを行う予定だった患者の急変時、結果的に同意が得られた対応と違った対応(いわゆる、望まない医療)が行われたのは、久留米圏域で45人であり、最多は「施設で救急搬送された」の21人である。



終末期医療の状況(望まない医療について)

※平成29年4月～平成30年3月末まで

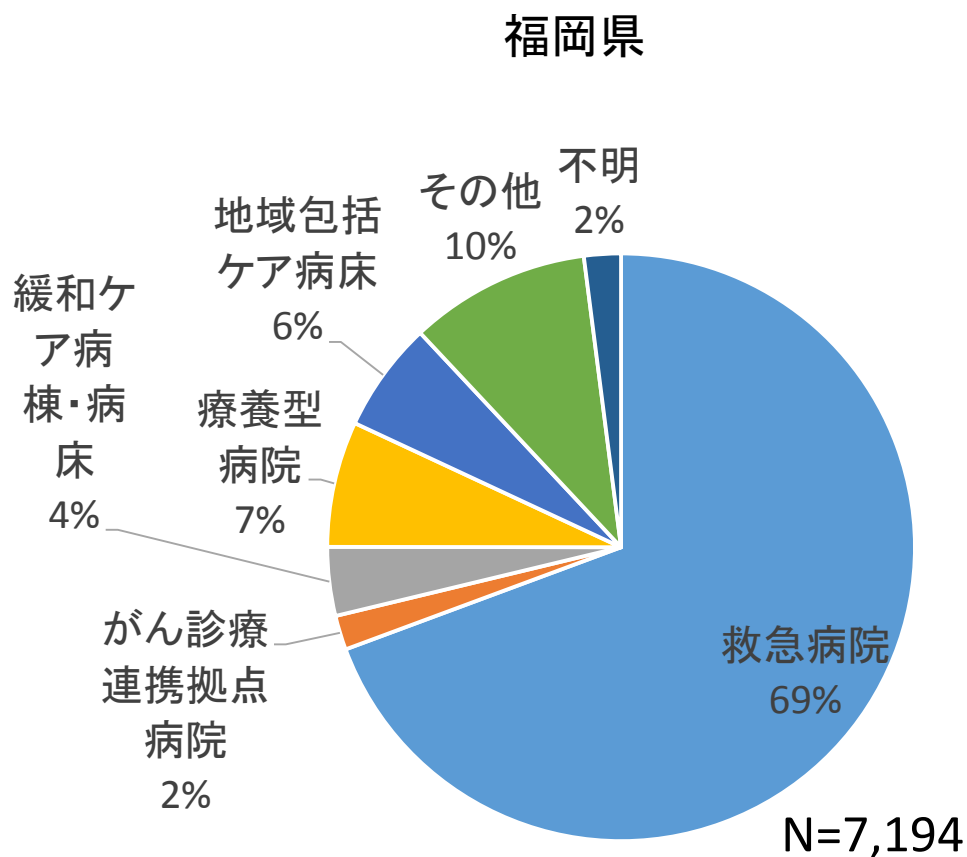
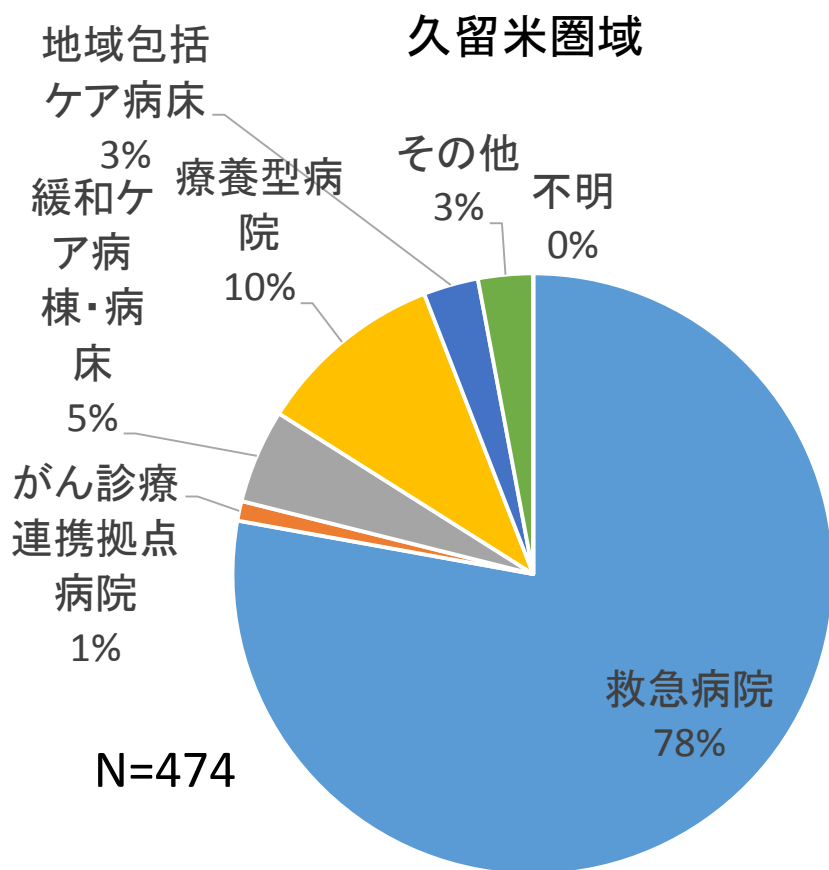
・看取りを行う予定だった患者の急変時に、事前に同意を得ていた内容と結果的に違った対応(いわゆる、望まない医療)が行われた人数を県全体と比較すると、久留米圏域の人数(45人)は県全体(261人)の約17%であった。



緊急入院の件数（入院先別）

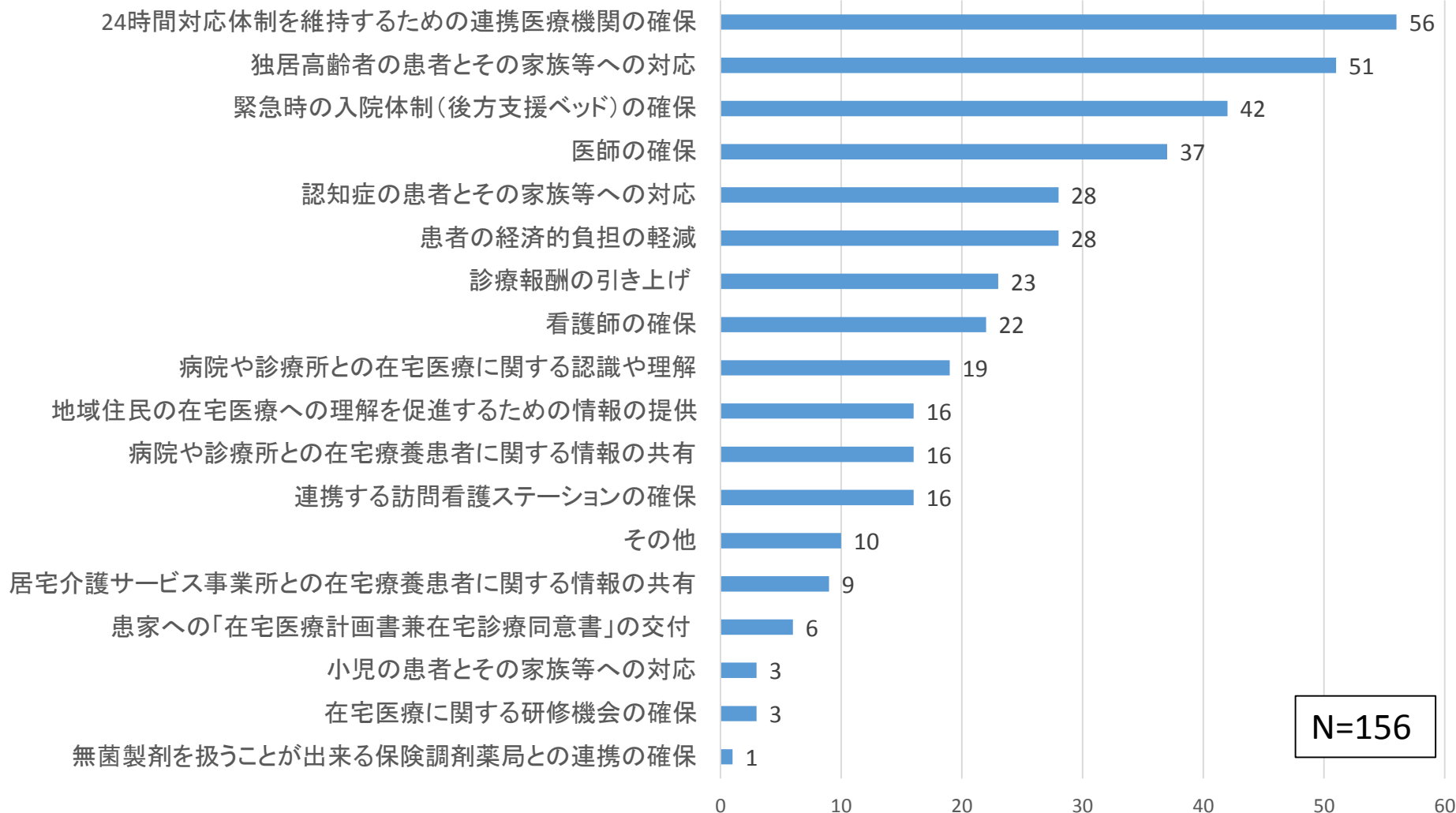
※平成29年4月～平成30年3月末まで

- ・訪問診療患者の緊急時の入院先は、救急病院が全体の約8割である。
- ・県全体の割合と比較すると、救急病院の割合が9ポイント高く、地域包括ケア病床の割合が3ポイント低くなっている。



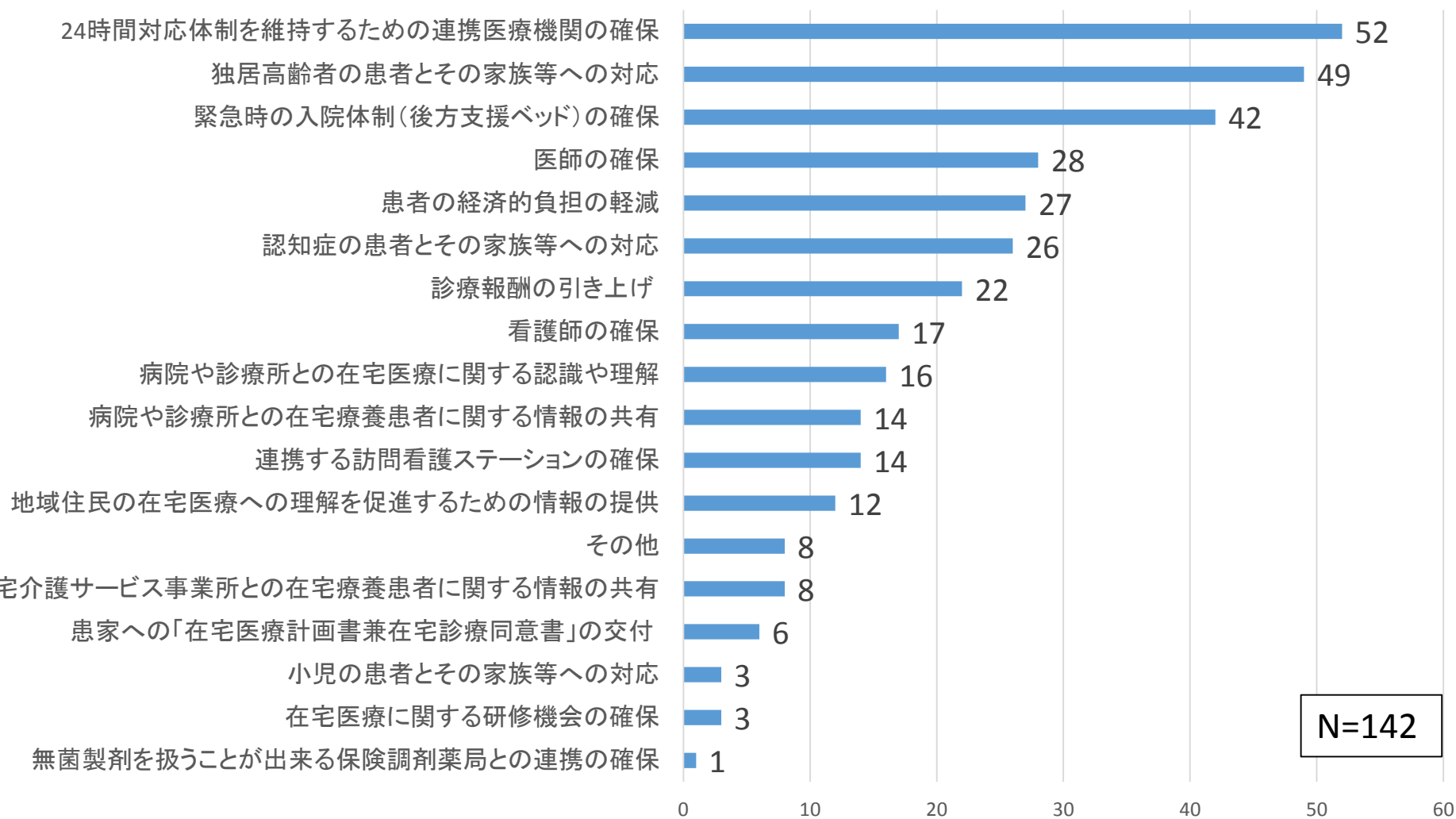
在宅医療を提供する上での課題

・在宅医療を提供する上での課題(3つまで複数回答可)として、「24時間対応体制を維持するための連携医療機関の確保」を挙げた医療機関が多く、全体の4割弱に上っている。次いで「独居高齢者の患者とその家族等への対応」を挙げた医療機関が多く、約3割となっている。



在宅医療を提供する上での課題（診療所）

・在宅医療を提供する上での課題（3つまで回答可）として、「24時間対応体制を維持するための連携医療機関の確保」を挙げた診療所が最も多く、全体の約4割弱に上っている。次いで「独居高齢者の患者とその家族等への対応」を挙げた診療所が多く、全体の3割強となっている。



在宅医療を提供する上での課題（病院）

・在宅医療を提供する上での課題（3つまで回答可）として、「医師の確保」を挙げた病院が最も多く、全体の6割強に上っている。次いで「看護師の確保」を挙げた病院が多く、全体の4割弱となっている。

